

Express 5800

SIGMABLADE コンパクトサーバ統合セット スタートアップマニュアル

856-128274-001-02
2010年 2月 4版

※ 本書はUL9020-A64 SIGMABLADEコンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイドの付属マニュアルです。

注意

製品のご使用前に、必ず本書をお読みの上で注意をお守り下さい。本書は、必要な時にすぐ見られるように保管して下さい。

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が各装置に添付されているユーザーズガイド、取扱説明書、スタートアップガイド、使用上のご注意等に記載されています。これらマニュアル類および「SIGMABLADEコンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」をあらかじめご覧の上、本紙をご覧下さい。本書と各種マニュアル類の記載が異なる場合は、各種マニュアル類の記載に従ってください。



*856-128274-001-02 *

この度は、SIGMABLADEコンパクトサーバ統合セットをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本書ではご購入されたセットに応じて、手順・作業が異なる場合があります。ご購入のセットに対応したマーク（**A**，**B**）を確認し、対応するマークの作業をおこなってください。

なお、ご購入されたセットに対応するマークが不明の場合は、
「UL9020-A64 SIGMABLADEコンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」(A3紙面)をご覧ください。

使用上のご注意（必ずお読みください）

本セットに含まれる各製品に添付される説明書等には、製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。事前に必ずお読み下さい。

セットには、以下の製品が含まれます。

- N8140-74 13Uラック
- N8405-016A ブレード収納ユニット(SIGMABLADE-M)
- N8405-019A EMカード
- N8405-039A 電源ユニット(AC100V対応)
- N8405-053 FANユニット
- N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ(L2) (*)
- N8406-011 GbE スルーカード (*)
- N8405-032 スロットブランクキット
- K410-84(05) RS232Cクロスケーブル (*)
- N8460-002 外付FDD
- N8143-69 17インチLCDコンソールユニット
- K410-119(1A) スイッチユニット接続ケーブルセット(1.8m)
- N8142-29 無停電電源装置(3000VA) (ラックマウント用) (*)
- N8180-60 SmartUPS用 SNMPカード (*)

* セットにより添付の有無が異なります。セット内容の詳細については、「UL9020-A64 SIGMABLADEコンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」(A3紙面)をご覧ください。

商標について

EXPRESSBUILDERとESMPRO、DianaScope、EXPRESSSCOPE、SigmaSystemCenter、WebSAM、DeploymentManager、NetVisorProは日本電気株式会社の登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、.NET Frameworkは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Pentiumは米国Intel Corporationの登録商標です。

HP-UXは米国Hewlett-Packard Companyの登録商標です。

Wake on LANは米国International Business Machines Corporationの登録商標または商標です。

JavaおよびすべてのJava関連およびロゴは米国Sun Microsystems, Inc.の登録商標または商標です。

TomcatはApache Software Foundationの登録商標または商標です。

LinuxはLinusTorvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

Windows Server 2003はMicrosoft® Windows Server™ 2003, Standard EditionおよびMicrosoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003, Datacenter Edition、Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition、Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Editionの略称です。

Windows Server 2003 R2は Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard EditionおよびMicrosoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Datacenter Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Datacenter x64 Editionの略称です。

Windows 2000はMicrosoft® Windows® 2000 Server operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略称です。

Internet ExplorerはMicrosoft® Internet Explorerの略称です。

JREはJava Runtime Environmentの略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

© NEC Corporation 2009, 2010
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

目次

Step 1 ラックの設置	6
Step1-1 ラックの設置場所を決めます	6
Step1-2 ラックおよび他の装置を移動させます	7
Step1-3 ラックを固定します	7
Step 2 ラックへの搭載	8
Step2-1 各装置の搭載位置を決めます	8
Step2-2 UPSをラックに取り付けます	12
Step2-3 ブレード収納ユニットをラックに取り付けます	14
Step2-4 コンソールユニットをラックに取り付けます	16
Step2-5 UPSのバッテリーを充電します	18
Step 3 UPSの接続・設定	20
Step3-1 SNMPカードをUPSに取り付けます	21
Step3-2 ケーブルを接続します	22
Step 4 コンソールユニットの接続	24
Step 5 スイッチモジュールの搭載	25
Step 6 CPUブレードの搭載	26
Step 7 電源ON	28
Step 8 EMカードの設定	33
Step8-1 EMカードの設定内容を確認します	33
Step8-2 SIGMABLADEモニターから設定します	34
Step 9 スイッチモジュールの設定	44
Step 10 CPUブレードの設定	45
管理ツールのご紹介	50
付録 A	52
困ったときは	54
その他の注意事項	55

~ Memo ~

[illegible]

Step 1 ラックの設置

A

ラックの設置は、必ず定められた人数(および条件)で行ってください。
本セットに含まれるラックの移動・設置は 2人以上 で行います。

B

Step1-1 ラックの設置場所を決めます

下図およびラックのユーザーズガイドの「セットアップを始める前に」を参照して、設置場所を決めます。



- ラックを建物内へ、さらに設置場所まで移動する際の搬入経路の調査をおこない、搬入が可能なことを確認してください。本セットに含まれるラックを搬入する場合は、ラックに付属するキャスタを使用して搬入をおこないます。
- 電源ケーブルはコンセントに届きますか？
- 空調設備からの距離・位置や他のラック・装置との位置関係等、冷却・エアフローは適切ですか？
- ケーブル接続や搭載機器の維持管理のため、図 1-1-a のようにあらかじめ保守領域を確保しておく必要があります。
- 設置場所(作業エリアを含む)は確保していますか？(作業エリアについては、図 1-1-a を参照してください。設置面積については、図 1-1-b を参照してください。)
- 床の耐荷重は支障がありませんか？(UPS 付)セットのラック搭載物の総重量は 約 277kg、単位荷重: 約 56kg/m² です。(UPS なし)セットのラック搭載物の総重量は 約 189kg、単位荷重: 約 38kg/m² です。(いずれも、本セットのブレード収納ユニットに、別売のオプション類を搭載した時の最大値(Express5800/B120a およびその他オプションを搭載した場合)です。)セット以外の他の装置(外付けのネットワークスイッチや外付けのストレージ装置等)をラックに搭載した場合は、それらの重量を考慮する必要があります。詳しくは、ラックのユーザーズガイドの「セットアップを始める前に」-「セットアップ前に準備」を参照してください。

図 1-1-a

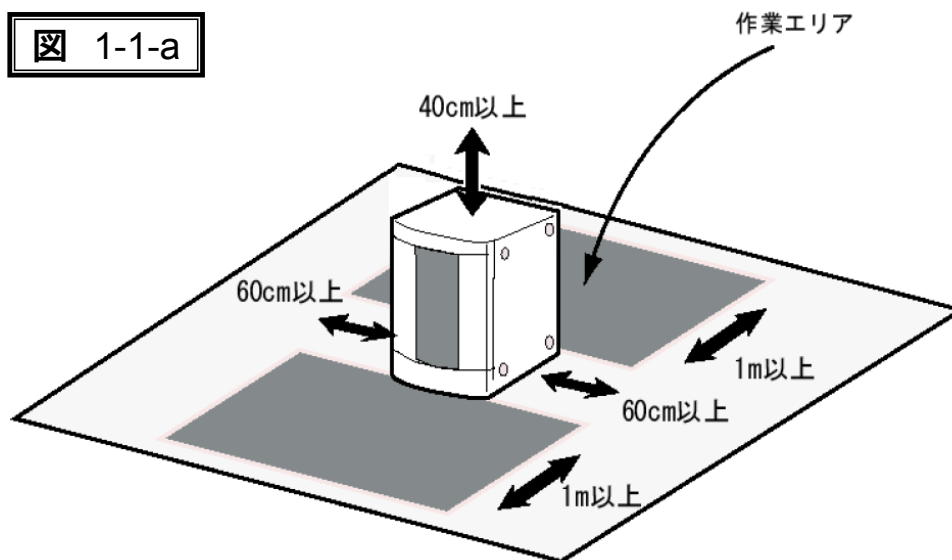
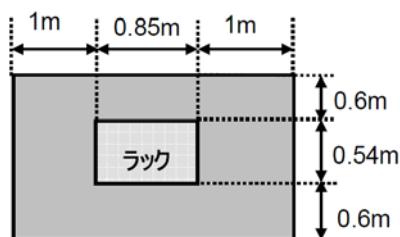


図 1-1-b

設置面積

単独設置 4.96m² (保守エリアを含む)



Step1-2 ラックおよび他の装置を移動させます

ラックおよび他の装置の説明書等を参照して、設置場所に移動させます。本セットに含まれる装置には、急激な温度変化に弱い精密部品を使用しています。移動後や保管後、運用する前に動作環境になじませてからお使いください。

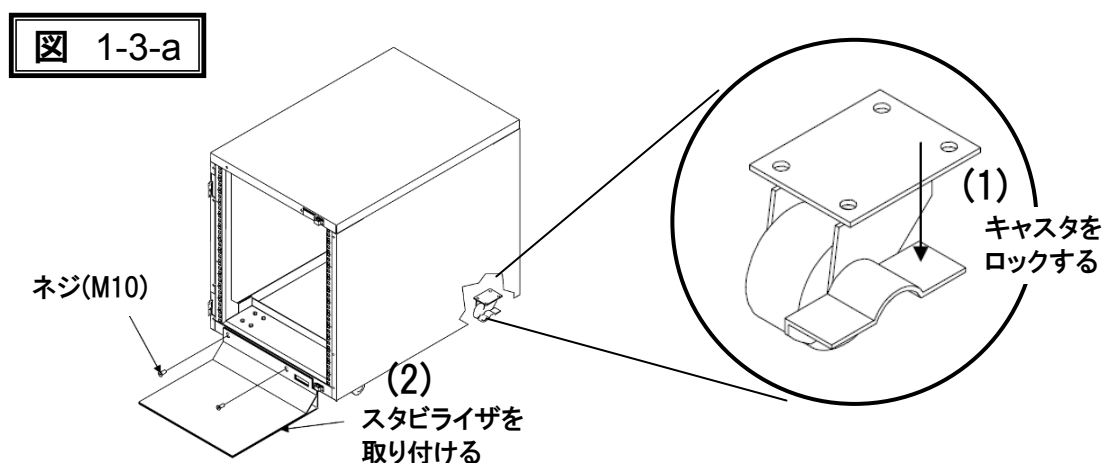
A

B

Step1-3 ラックを固定します

図 1-3-a およびラックのユーザーズガイドを参照して、以下の手順でラックを固定してください。

- (1) 設置場所に移動した後、ラック後側のキャスタにロックを掛けてください。
- (2) 添付されているスタビライザをラックの前面に取り付けてください。



- ラックの固定には、スタビライザによる固定以外に、ボルト固定等の耐震固定対策を行う方法があります。搭載状態での転倒角が基準をオーバーしてしまった場合には、ボルト固定等の耐震固定対策が必要です。ラックの耐震固定を行う場合は、必ずラックのユーザーズガイドを参照してください。
- ラックのフロントドアおよびリアドア(別売)の取り付け/取り外しを行う場合は、手や足を挟んだり、ドアを落としたりしないよう注意してください。



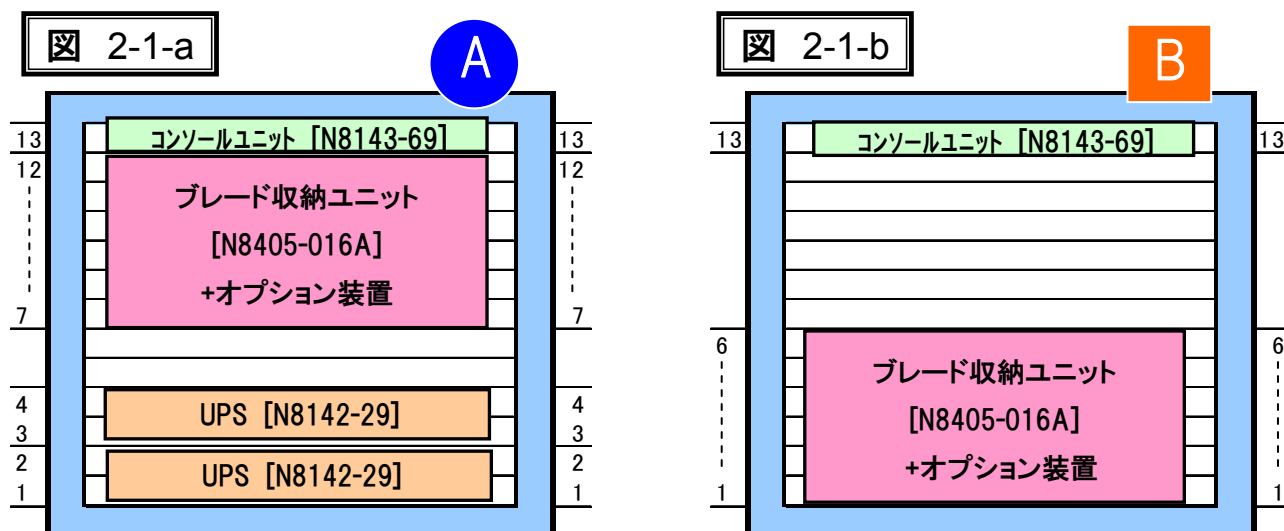
- ラックの固定についての詳細は、ラックのユーザーズガイドの「ラックの設置」を参照してください。
- スタビライザおよびネジ(M10)は、ラックに添付されています。

Step 2 ラックへの搭載

Step2-1 各装置の搭載位置を決めます

下図は各装置をラックに搭載する場合の例です。ご利用の環境・装置等に応じた搭載位置を決めてください。

ラック搭載例



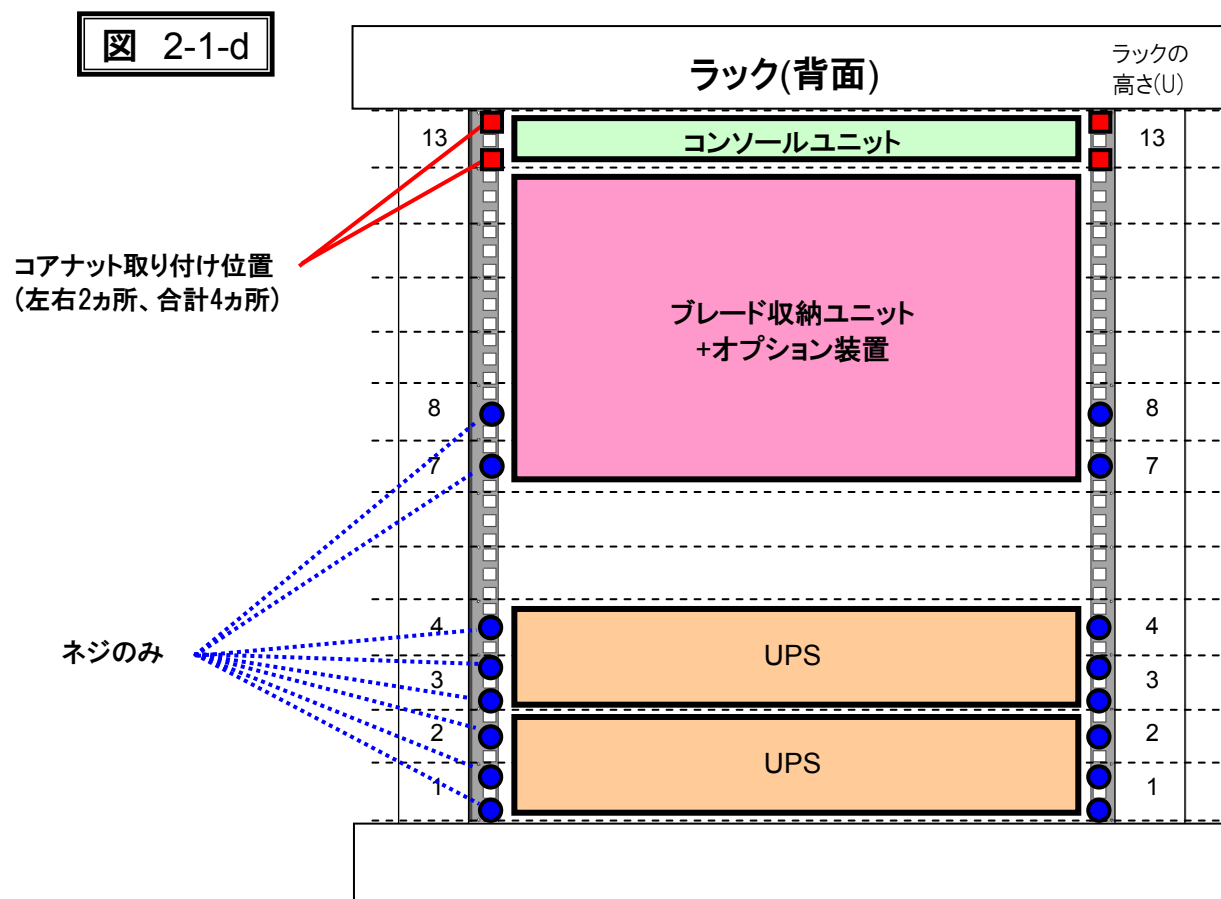
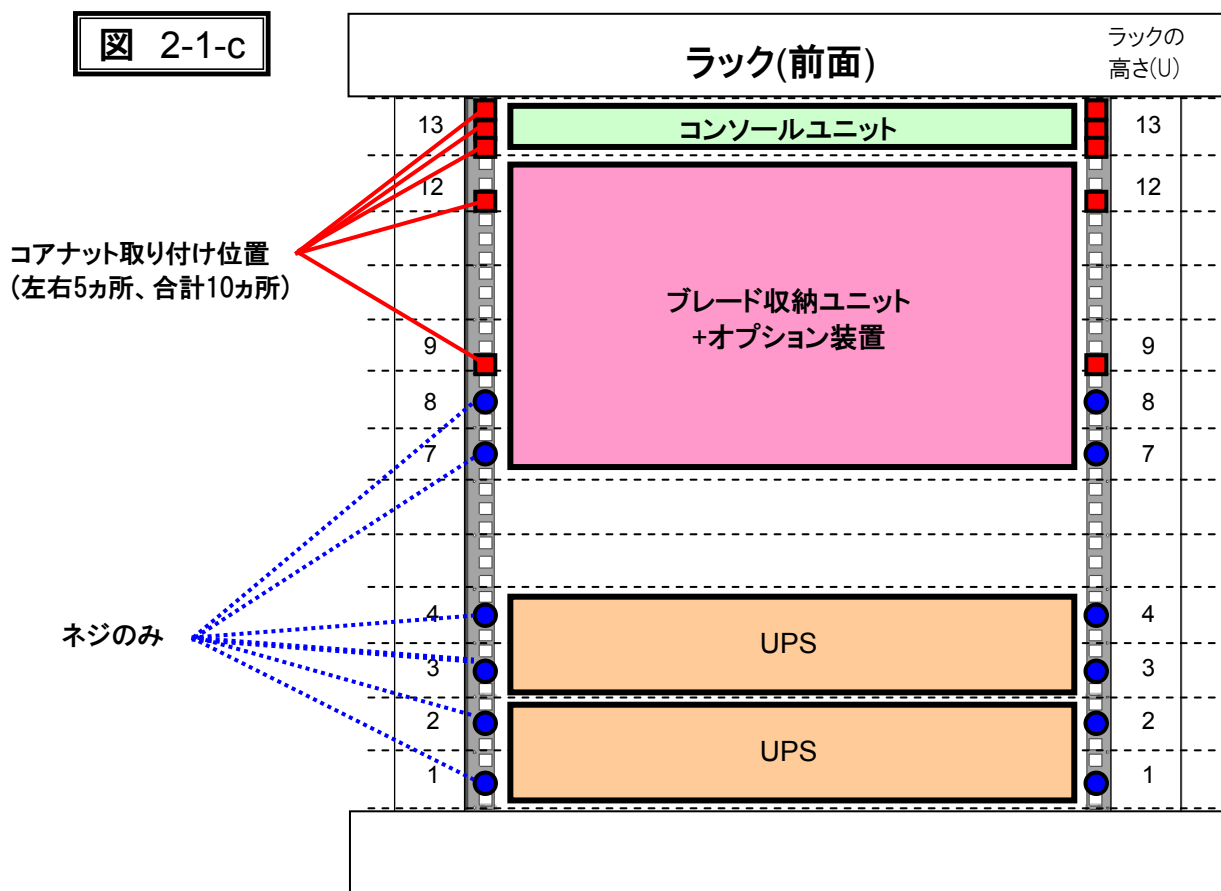
- ケーブル類は届きますか？
- 最下段から順に重いものを搭載していますか？（原則、1U 当たりの重さが重いものが下）
- ラックの内側に添付品やスタビライザが収納されている場合があります。あらかじめ取り出してください。
- (UPS 付)/(UPS なし)いずれのモデルとも、コアナットを合計 14 個、用意します。(コアナットはラックに添付されています。)



- 次ページ以降に、上記搭載例の場合の、コアナットの取り付け位置および(コアナットを使用せずに固定する)ネジ位置を、一例として掲載しています。上図の例と異なる場合でも、参考としてご覧ください。
- コアナットの取り付けは、Step2-2 以降に各装置をラックに搭載する際に行う手順となっていますが、本 Step でまとめて取り付けておくこともできます。

下側の搭載物から順に搭載します。

● コアナット等取り付け位置（図 2-1-aの場合）



● コアナット等取り付け位置（図 2-1-bの場合）

図 2-1-e

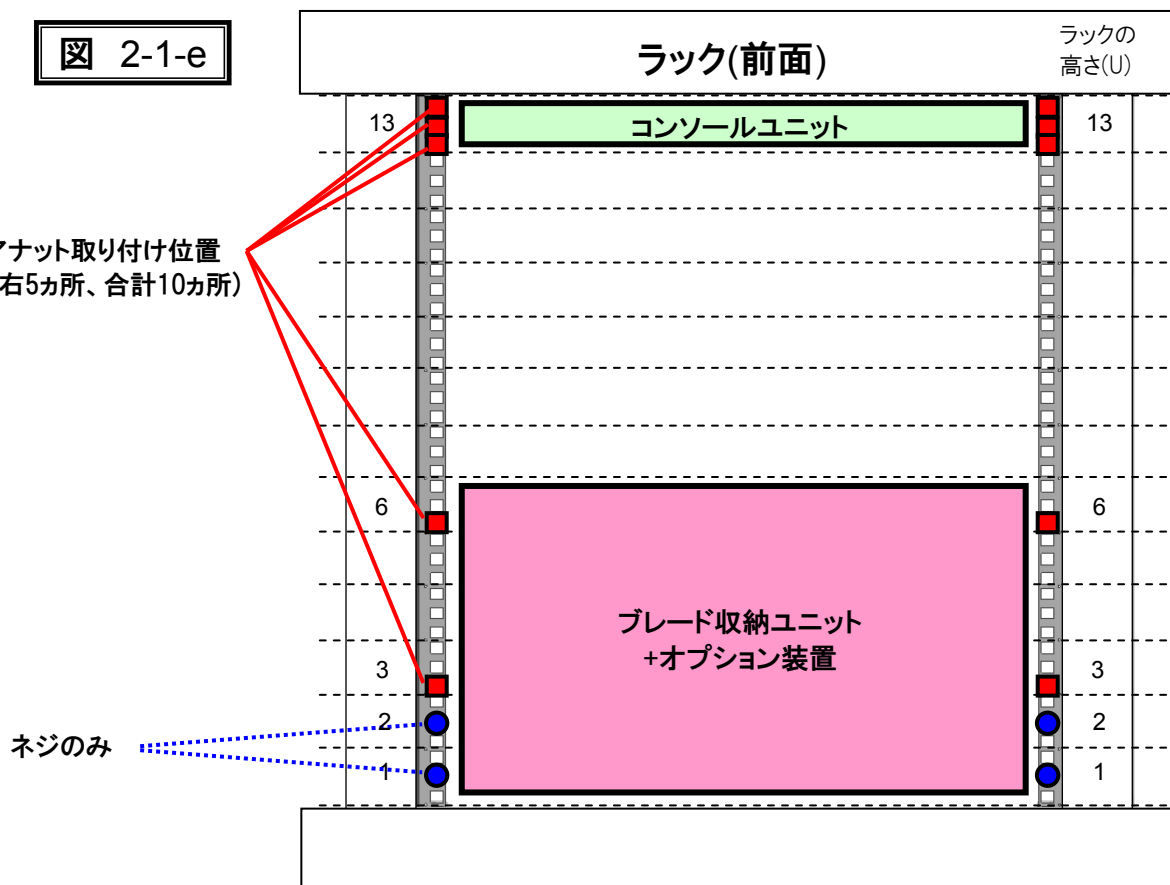
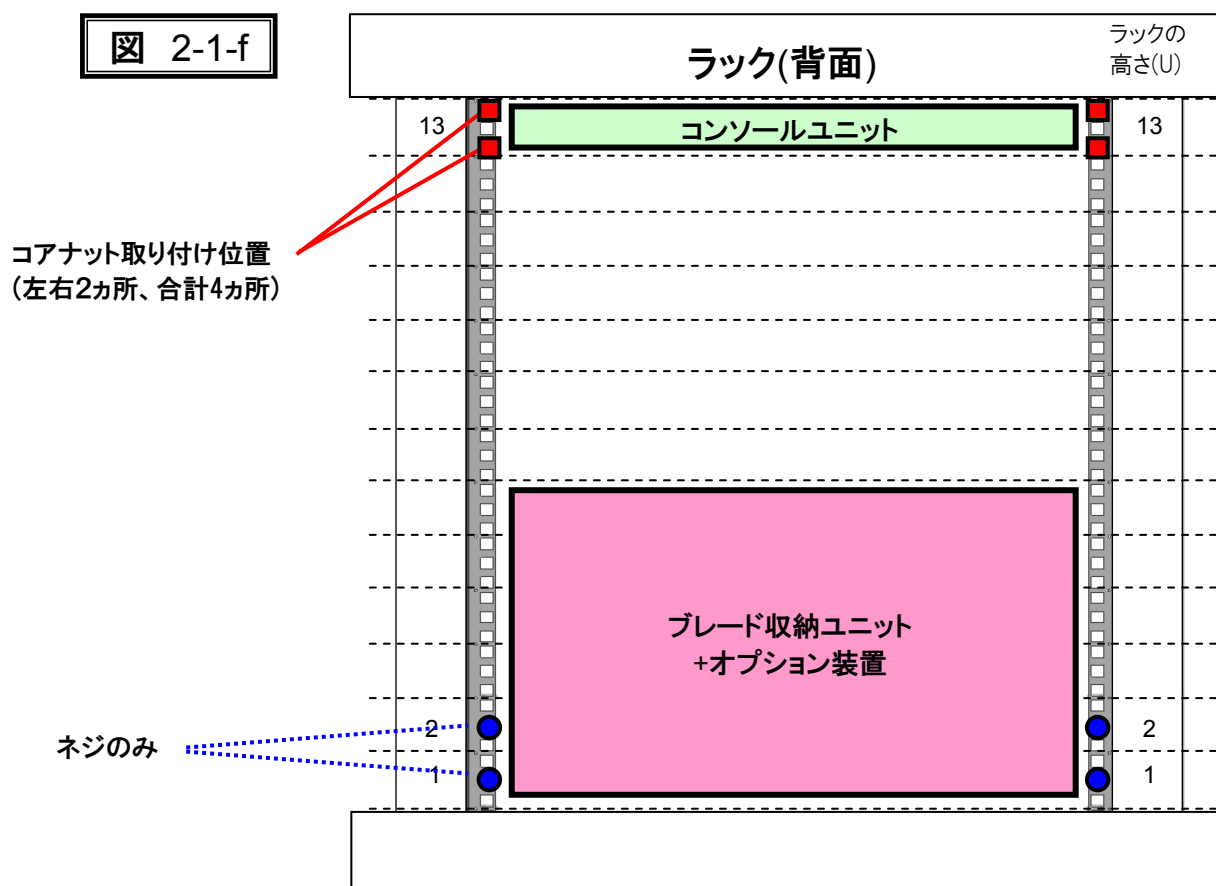


図 2-1-f



~ Memo ~

[illegible]

Step2-2 UPS をラックに取り付けます

A

ラックへの搭載は、必ず定められた人数(および条件)の保守員が行います。
本セットに含まれるUPSの搭載は 3人以上 で行います。

次ページの図およびUPSの取扱説明書を参照しながら、以下の手順で搭載します。



- レール (L/R)、ネジ類およびワッシャは UPS に添付されています。コアナットはラックに添付されています。
- UPS 取り付けの詳細は、UPS の取扱説明書の「設置」を参照してください。

[図 2-2-a および -b参照]

- (1) レールの前後を2人で持って、レールを延長し、ラック前面のフレームから背面のフレームまで届くようにします。
- (2) ネジ(レール取り付け用)とワッシャでレールをラックのフレームに固定します。(ラック前面は、フレームの取り付け位置の下から 2番目と5番目 の穴を使用します。ラック背面は、フレームの取り付け位置の下から 1番目、3番目および5番目 の穴を使用します。)




- レールは左右 ((L)と(R))で形状が異なります。図 2-2-a を参照して、正しい位置・向きであることを確認してください。
- レール先端の折り曲がり部分が、ラック内側からふさぐように取り付けます。
- レールの前後が平行であることを確認してください。また、左右のレールの取り付け位置が平行であることも確認してください。



- レール左右 ((L)と(R))および取り付けに使用するネジ、ワッシャ、化粧ネジおよびフロントベゼルは、UPS に添付されています。
- ネジ/ワッシャの位置が分かり難い場合は、一旦、レールをラックフレームの前後に延ばして、位置を確認してください。

もう片方のレールについても同様に(1)、(2)を行います。

- (3) ブラケット用ネジを使用して、取り付けブラケット(UPSの前方左右に取り付ける固定具; 図 2-2-a参照) 2個をUPSに取り付けます。
- (4) 3人以上でUPSを持ち、クリート(図 2-2-a参照)をレールの溝に合わせ、UPSを慎重にスライドさせます。
 UPSの電源ケーブル(ACケーブル)やプラグを踏んだり、ラックのフレーム等との間に挟んだりして傷つけないように注意して載せてください。

- (5) 化粧ネジを使用して取り付けブラケットをラックのフレームにネジ止めして、UPSを固定します。

[図 2-2-c参照]

- (6) バッテリー接続コネクタを引き出し、バッテリー接続挿入コネクタに「カッチ」と音が鳴るまで十分に挿入する。

[図 2-2-d参照]

- (7) フロントベゼルの左右の丸く切り抜いた箇所をつかみ、側面にある突起をUPS 正面の溝に位置合わせし、フロントベゼルをそっとはめ込みます。

もう1台のUPSも同様の手順でラックに搭載します。

図 2-2-a

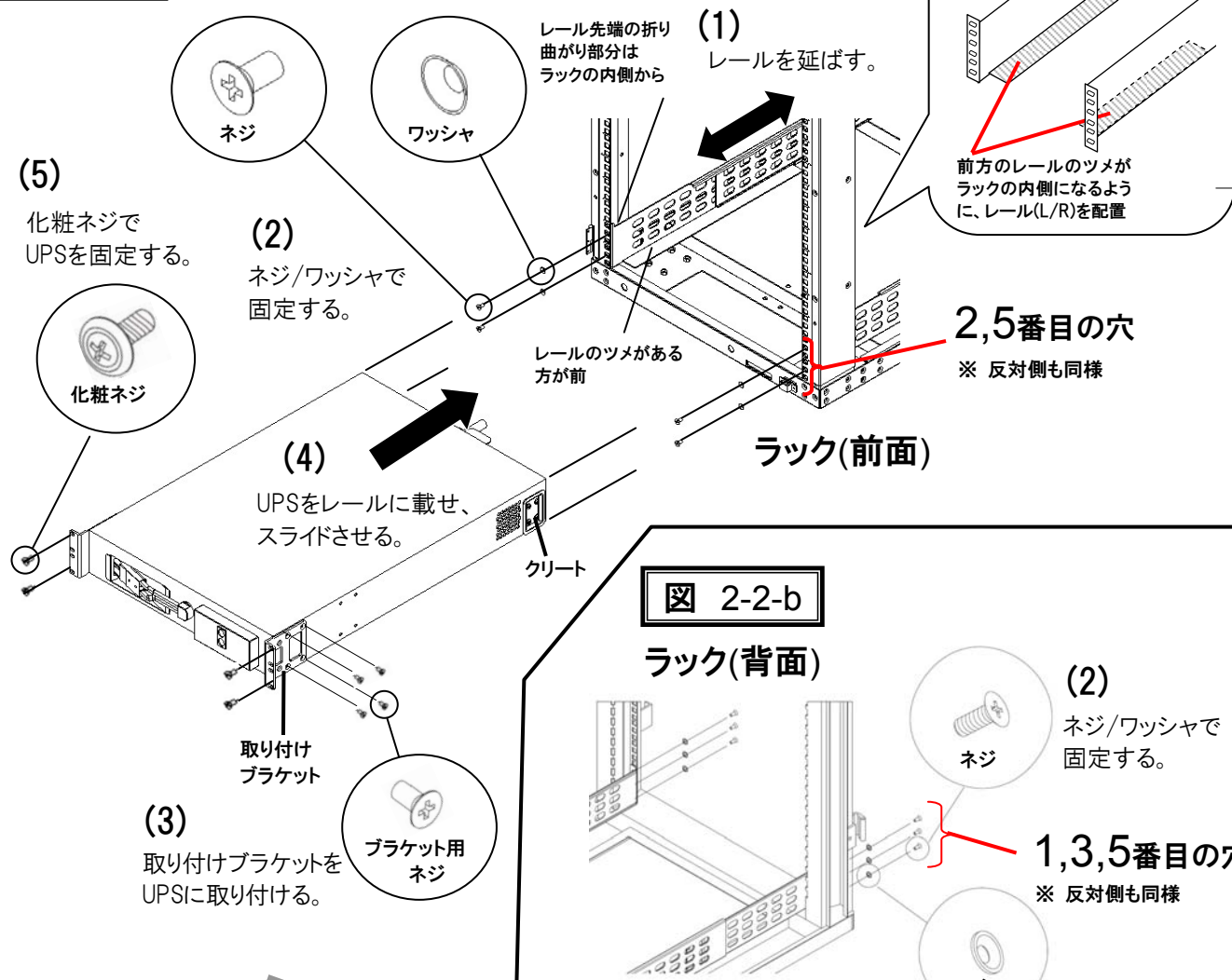


図 2-2-b

ラック(背面)

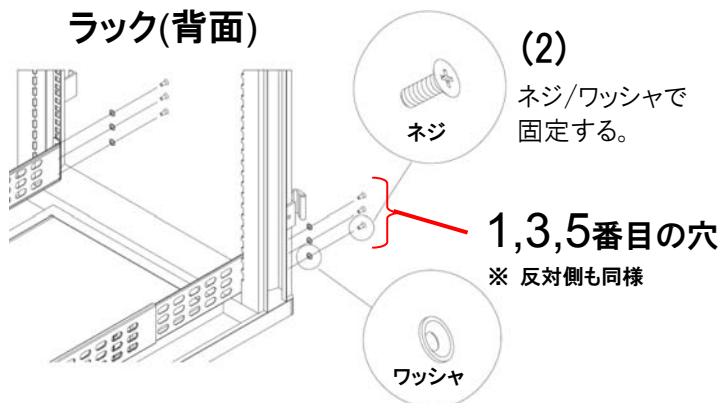


図 2-2-c

ラック(前面)

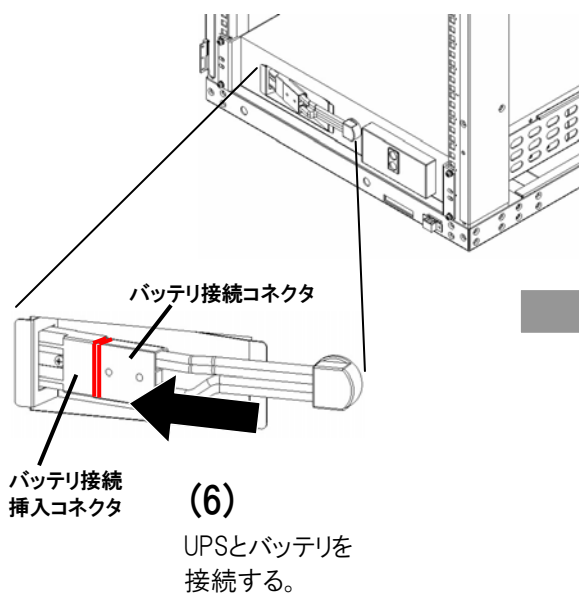
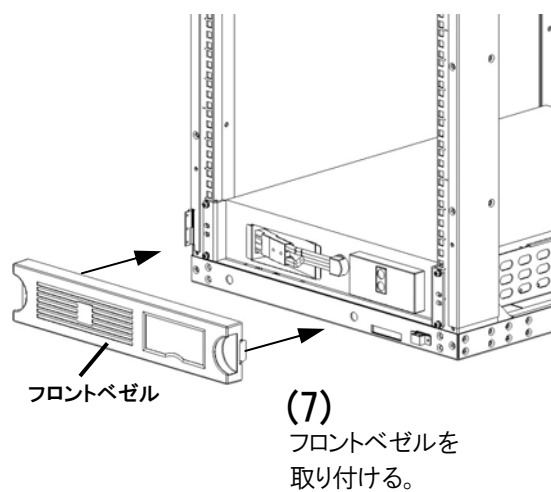


図 2-2-d

ラック(前面)



Step2-3 ブレード収納ユニットをラックに取り付けます

ラックの設置は、必ず定められた人数(および条件)の保守員が行います。
本セットに含まれるブレード収納ユニットの搭載は 4人以上 で行います。

次ページの図およびブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照しながら、以下の手順で搭載します。



- レール(レールブラケット)(L/R)、ネジおよびワッシャはブレード収納ユニットに添付されています。コアナットはラックに添付されています。
- ブレード収納ユニット取り付けの詳細は、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドの「設置」-「ラックへの取り付け」を参照してください。

[図 2-3-a参照]

- (1) レール(レールブラケット)(R)のネジをゆるめて、適切な長さに調整します。
- (2) ネジ(M5)とワッシャでレール(レールブラケット)(R)を、ラックのフレームに固定します。



- レール(レールブラケット)は左右 ((L)と(R))で形状が異なります。図 2-3-a を参照して、正しい位置・向きであることを確認してください。
- レール(レールブラケット)先端の折り曲がり部分の突起が、ラックのフレームに設けられた穴をラック内側からふさぐように取り付けます。
- レールの前後が平行であることを確認してください。また、左右のレールの取り付け位置が平行であることも確認してください。

レール(レールブラケット)(L)についても 同様に(1)、(2)を行います。

- (3) コアナットをラックのフレームに取り付けます。
- (4) 4人以上でブレード収納ユニットに取り付けてあるハンドルをしっかりと持ち、レール(レールブラケット)のL字型のフレームにゆっくりと静かに載せます。



ブレード収納ユニットをラックに取り付ける場合は、あらかじめすべてのCPUブレードおよび電源ユニットを取り外しておいてください。(ブレード収納ユニットをラックに取り付けた後に、電源ユニット等を取り付けてください。)



ブレード収納ユニットをラックに取り付ける前に、あらかじめブレード収納ユニット側面の脱落防止のロック機構を解除されていることを確認します。

- (5) ブレード収納ユニットが停止するまでラックへ押し込んだ後、ネジ(大)でブレード収納ユニットの前面を固定します。

[図 2-3-b参照]

- (6) CPUブレードのスロット1側から、ブレード収納ユニットのロック機構をセットします。

図 2-3-a

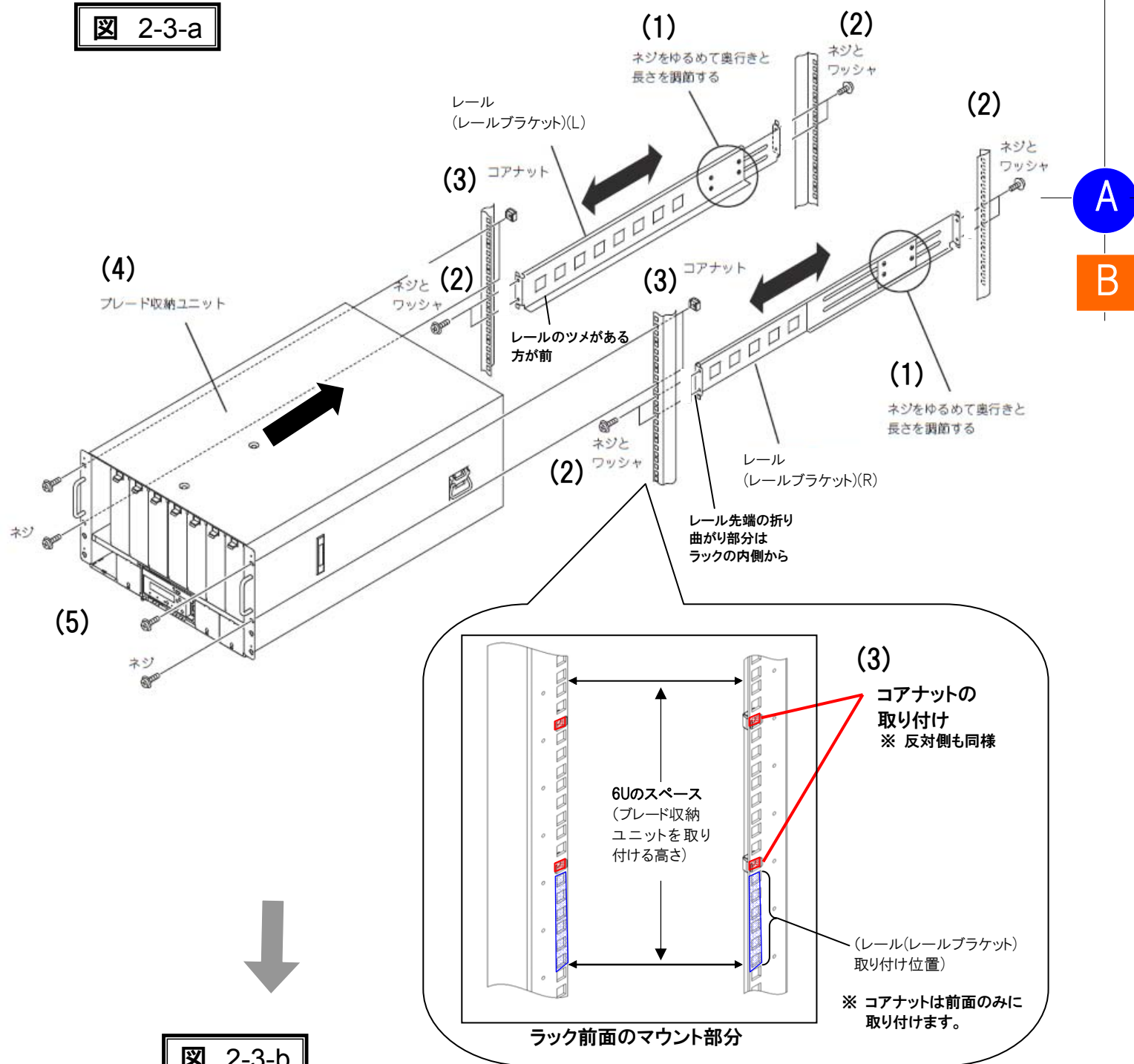
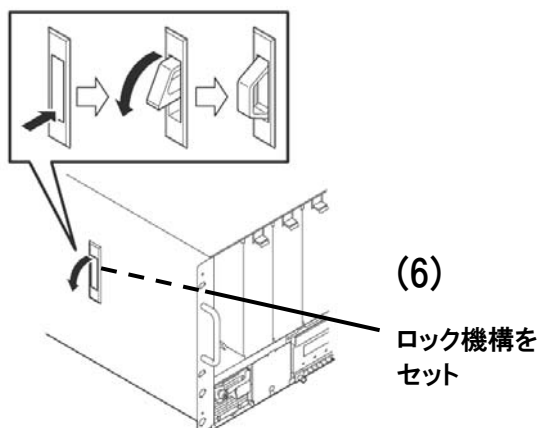


図 2-3-b



Step2-4 コンソールユニットをラックに取り付けます

ラックの設置は、必ず定められた人数(および条件)の保守員が行います。
本セットに含まれるコンソールユニットにユニットの搭載は 2人以上で行います。

A

次ページの図およびコンソールユニットを参照しながら、以下の手順で搭載します。

B



- レール(ガイドレール)は左右で形状が異なります。図 2-4-c を参照して、正しい位置・向きであることを確認してください。
- レール(ガイドレール)は、レール(ガイドレール)の折り返し部分が外側からラックに挟み込むようにして取り付けます。
- レールの前後が平行であることを確認してください。また、左右のレールの取り付け位置が平行であることも確認してください。



- レール(ガイドレール)(L/R)およびネジはコンソールユニットに添付されています。コアナットはラックに添付されています。
- コンソールユニット取り付けの詳細は、コンソールユニットのユーザーズガイドの「ラックへの取り付け」を参照してください。

[図 2-4-a および -b参照]

- (1) コアナットをラックのフレームに取り付けます。

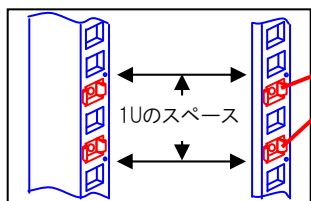
[図 2-4-c参照]

- (2) レール(ガイドレール)の折り返し部分をラックに挟み込むようにしてラックにネジ止め(上下2箇所ずつ、合計 8 箇所)します。
- (3) 前方から本製品をレール(ガイドレール)に沿って入れます。本製品を止まるまで押し込み、前面2箇所をネジで固定します。

[図 2-4-d参照]

- (4) ハンドルバンドや耐震ゴムが取り付けられている場合、取り外します。

図 2-4-a

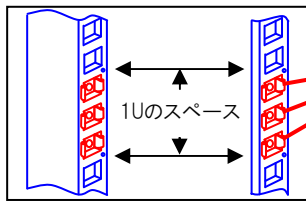


ラック背面のマウント部分

(1)

コナットの
取り付け
※ 反対側も同様

図 2-4-b



ラック前面のマウント部分

(1)

コナットの
取り付け
※ 反対側も同様

図 2-4-c

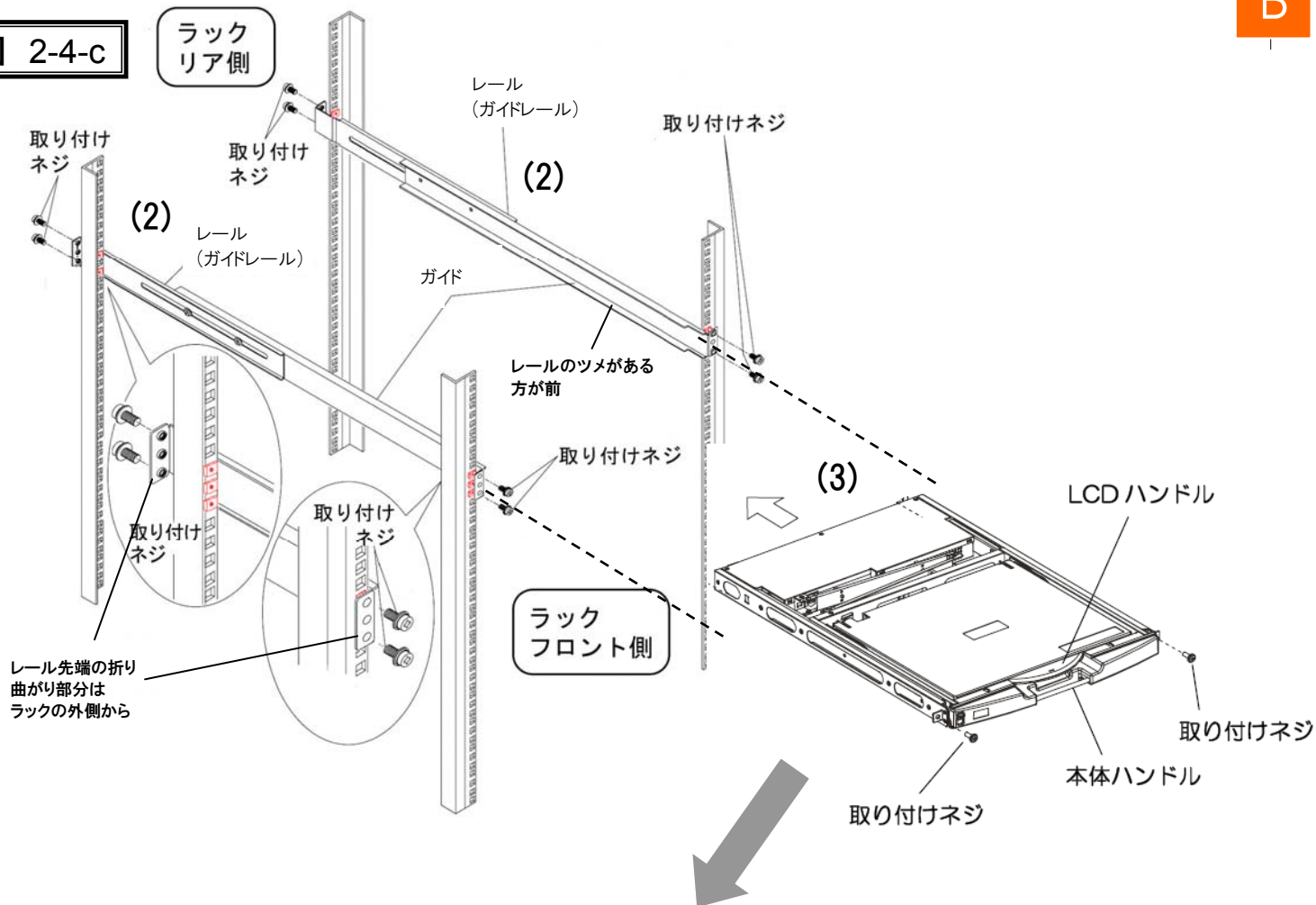
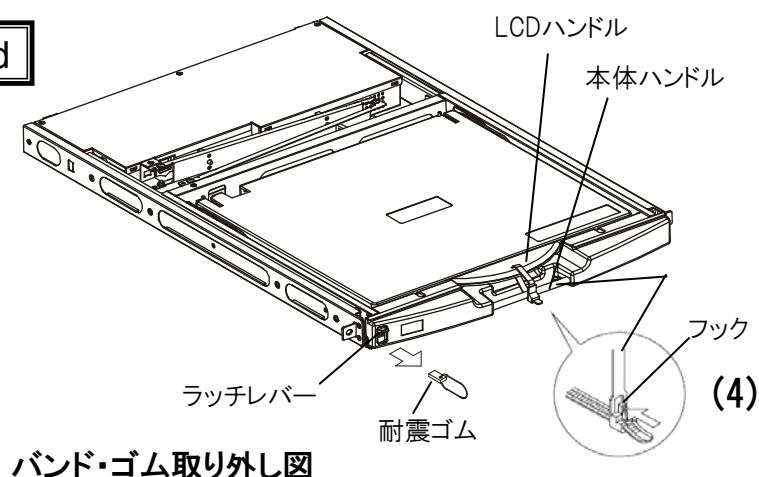


図 2-4-d



バンド・ゴム取り外し図

A

B

Step2-5 UPS のバッテリーを充電します

システムの連続運転を開始する前に、UPSのバッテリーの充電を行います。

A



システムの連続運転をする前に、負荷装置を接続せずに、UPSの電源ケーブル(ACケーブル)をコンセントに接続し、入力ブレーカをONし **6時間以上** 充電してください。



ここで、充電を行わずに先のStepに進むことも可能です。(充電を行わなかった場合、UPSにブレード収納ユニットを接続していても十分な電力供給がおこなわれず、CPUブレード等の搭載モジュールが適切にシャットダウンしない場合があります。)ここで充電を行わずに先のStepに進む場合は、各種設定が終わった後に、連続運転をする前に以下と同様の手順で充電を行ってください。

以下の図およびUPSの取扱説明書を参照しながら、作業を行います。



- 本作業はUPSの出力コンセントに装置を何も接続しない状態で行ってください。
- 本作業はUPSの電源がOFFの状態で行ってください。

[図 2-5-a参照]



- 必要な電源設備については、「UL9020-A64 SIGMABLADE コンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」(A3 紙面)を参照してください。
- 分電盤(商用電源)のブレーカが電源 OFF であることを確認してから行ってください。

(1) UPSの電源ケーブル(ACケーブル)を、コンセント(商用電源)に接続します。

(2) 分電盤(商用電源)のブレーカをONにします。

(3) 入力ブレーカをONします。

→ UPSのバッテリーに充電が開始されました。このまま **6時間以上** 待ちます。



充電状態は、バッテリー残量/商用電源電圧モニターで確認することができます。詳細は、UPSの取扱説明書の「各部の名称」-「フロントパネル」を参照してください。

もう1台のUPSも同様の手順で充電します。

(4) 分電盤(商用電源)のブレーカをOFFにします。

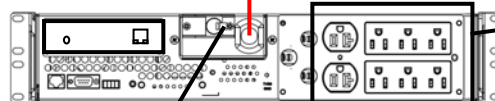
(5) 電源ケーブル(ACケーブル)のプラグをコンセント(商用電源)から抜きます。(2台のUPSとも)

図 2-5-a

AC100Vコンセント
NEMA L5-30R
(商用電源: お客様設備)



(1) 電源ケーブルのプラグを
コンセントに接続



UPS(背面)

出力コンセントには
何も接続しない

入力ブレーカ (2) 入力ブレーカをONする。

~ Memo ~

[illegible]

Step 3 UPSの接続・設定

A

(UPS付)セットの場合のみ

無停電電源装置(UPS)は、停電、電圧低下、サージなどの外部電源変動からコンピュータシステムを保護するものです。

通常、無停電電源装置は商用電源からの電力をコンピュータやその他の電子機器に供給しています。商用電源が停電すると、この無停電電源装置は、内蔵バッテリーを使って電力を供給します。バッテリー給電中は警報音を鳴らしていますが、残り少なくなると連続的な警報音に変わり、間もなくバッテリーが切れることを知らせます。

商用電源の電圧が安全なレベルにまで回復すると、自動的に商用電源に戻します。

本セットに含まれるEMカードはUPS管理機能を持っており、停電、電圧低下等の異常時において以下の制御を行うことができます。

- ・ CPUブレードの自動シャットダウン機能
- ・ 復電後のCPUブレード 自動電源ON機能

以降の手順は、EMカードによるUPS管理機能を使用する場合の手順を記載しています。



スケジューリング運用等の高度な UPS 管理機能をお求めのお客様には、別売のソフトウェアをご用意しております。詳しくは、本書の「管理ツールのご紹介」や SIGMABLADE シリーズのシステム構成ガイドを参照してください。

Step3-1 SNMP カードを UPS に取り付けます

本セットに含まれるSNMPカードをご用意ください。下図およびSNMPカードの取扱説明書を参照しながら、以下の手順で取り付けてください。



- 本作業はUPSの電源ケーブル(ACケーブル)を接続しない状態で行ってください。
- 本作業はUPSの電源がOFFの状態で行ってください。
- 本作業はUPSに装置を何も接続しない状態で行ってください。

A

[図 3-1-a参照]

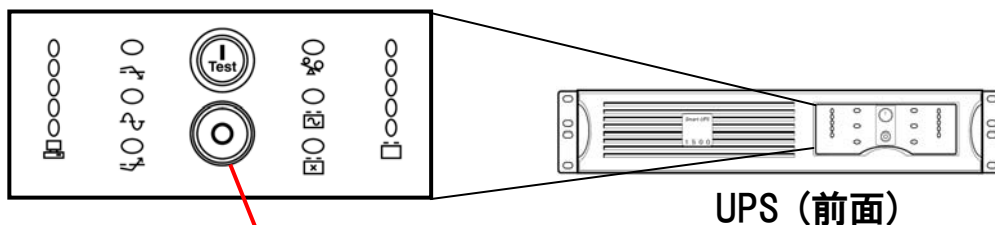
- (1) UPSの前面パネルにあるOFFボタンを約5秒間押し、確実な電源OFFを実施してください。(UPSは内蔵バッテリーを備えているため、UPSの電源ケーブル(ACケーブル)をコンセントに接続していない状態でも、電力を出している可能性があります。)
→ 既に電源OFFの状態の場合は、UPSの状態(ランプ(LED)の表示等)に変化はありません。

[図 3-2-b参照]

- (2) 背面のオプションスロット(アクセサリスロット)の2つのネジを外して、(ACケーブル)のカバープレートはUPSから外してください。
- (3) SNMPカードをUPSのオプションスロットへ挿入し、(2)で外したネジを使ってSNMPカードをUPSに固定してください。

図 3-1-a

UPSフロントパネル拡大図



UPS (前面)

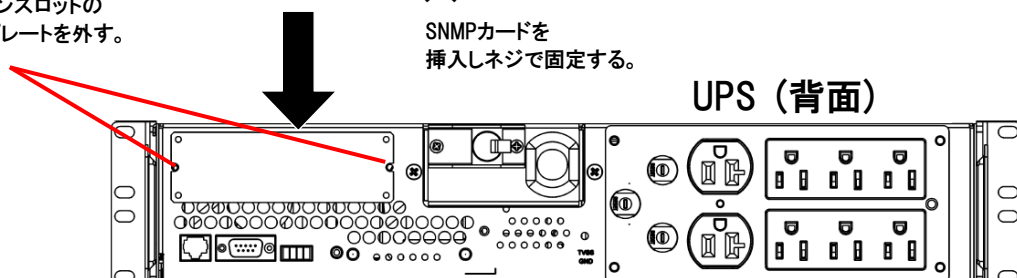
- (1) OFFボタンを押す。
(約5秒間)

図 3-1-b

SNMPカード

- (2) UPS背面のネジを外し、オプションスロットのカバープレートを外す。

- (3) SNMPカードを
挿入しネジで固定する。



UPS (背面)

Step3-2 ケーブルを接続します

次ページの図を参照しながら、以下の手順で接続してください。

A



UPSが、継続して、Step 3-1の[重要] に記載されている状態であることを確認してから作業を開始してください。なお、「Step 7 電源ON」で指示があるまでは、分電盤(商用電源)のブレーカは電源OFF状態のままにしてください。

[図 3-2-a参照]

- (1) 2 台の UPS の SNMP カードの 10/100BASE-T コネクタと、ブレード収納ユニットの UPS 管理用ネットワークポート(「EXT1 ポート」および「EXT2 ポート」)にそれぞれネットワークケーブルで接続します。



必要な電源設備については、「UL9020-A64 SIGMABLADE コンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」(A3 紙面)を参照してください。

[図 3-2-b参照]

- (2) 電源ケーブル(合計 4 本)をブレード収納ユニットに搭載した電源ユニットに接続し、プラグを UPS にそれぞれ 2 本接続します。(電源ケーブルはブレード収納ユニットの添付品箱に収納されています。)



- UPS にはブレード収納ユニット以外の装置を接続しないでください。ブレード収納ユニットは、図 3-2-b に従って接続してください。
- 電源ケーブルは、UPS の上下の「出力コンセント 100V/15A」に、それぞれ 1 本ずつ接続します。



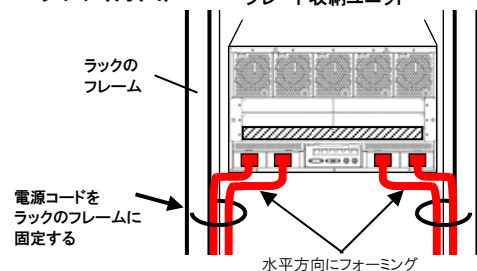
ケーブルフォーミングについて、

電源ケーブル等のケーブル類は、以下の点に注意して、他の装置や作業の妨げにならないようにフォーミングしてください。(詳細は、ラックのユーザーズガイドの「搭載オプションのケーブル処理」を参照してください。)

- ・ 各種装置の吸気/排気の妨げになっていませんか?
- ・ 各種装置やオプション類の取り付け/取り外しの妨げになっていませんか?
- ・ ランプ(LED)、ラベル等の表示/印字部分を遮っていませんか?

ラック(背面)

ブレード収納ユニット



- (3) 2 台の UPS の電源ケーブル(AC ケーブル)をそれぞれコンセントに接続します。

図 3-2-a

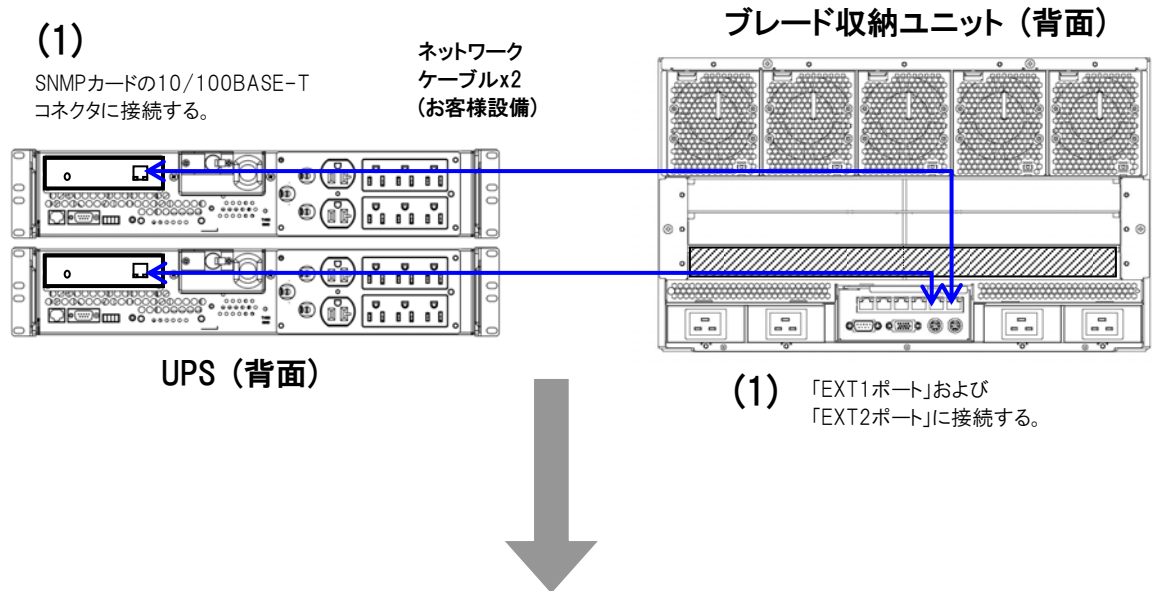
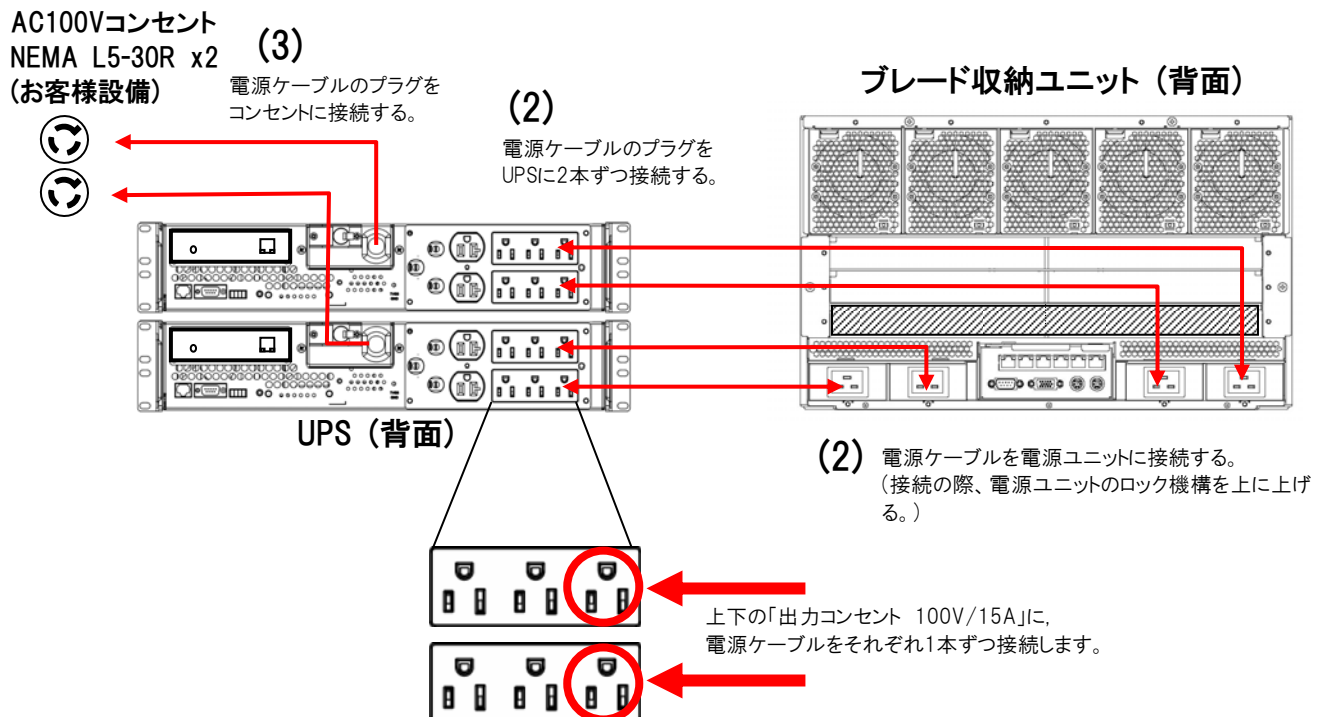


図 3-2-b



Step 4 コンソールユニットの接続

A



接続するコンセントの分電盤が、電源OFFの状態であることを確認してください。また、「Step 7 電源ON」で指示があるまでは、分電盤は電源OFF状態のままにしてください。

B

本セットに含まれるスイッチ間接続ケーブルをご用意ください。図 4-1-a およびコンソールユニット・ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照しながら、以下の手順でコンソールユニットとブレード収納ユニットを接続します。



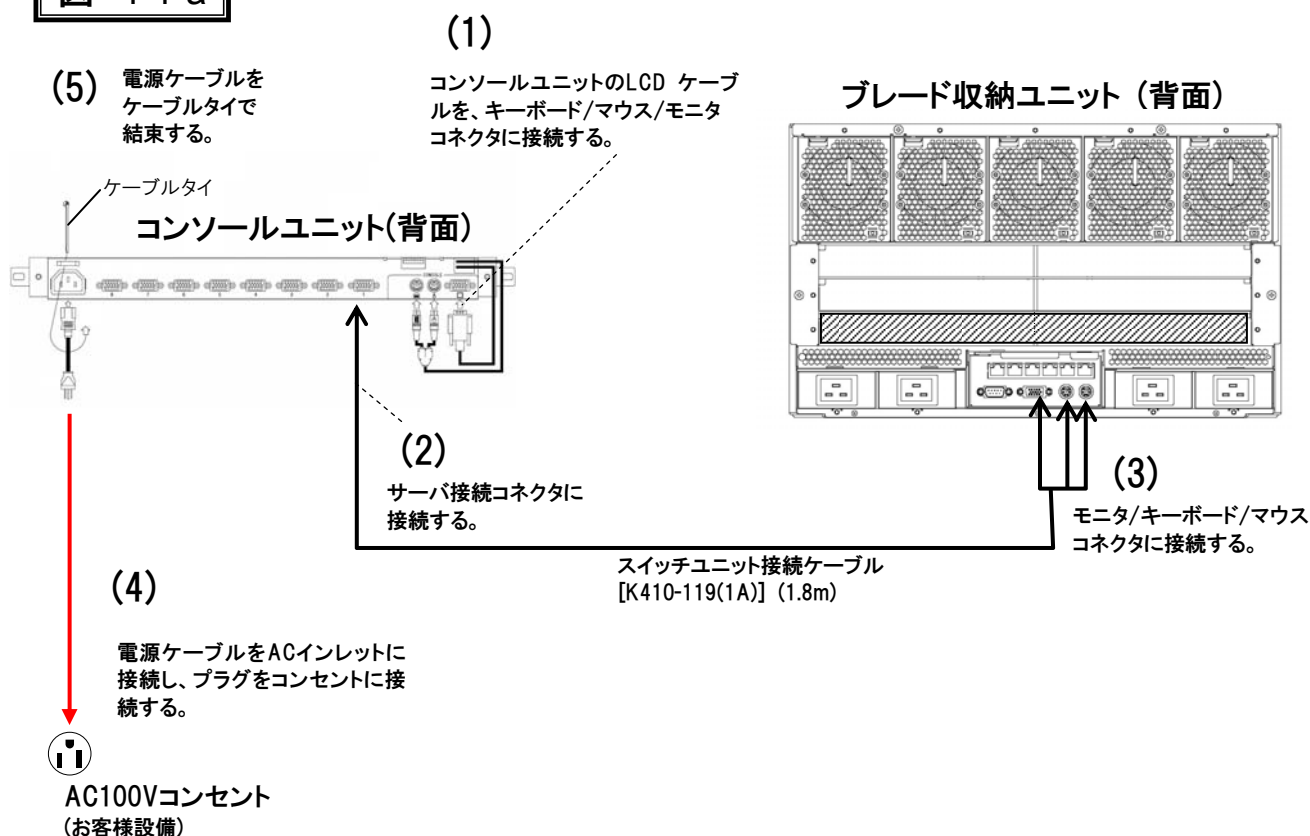
LCD 用コネクタ(Mini D-Sub 15Pin)を接続する際には、LCD 用コネクタの固定ネジを締めて確実に本製品およびブレード収納ユニットに接続してください。確実に接続していない場合には画像が乱れたり映らない等のおそれがあります。



- コンソールユニットに接続する電源ケーブルは、コンソールユニットに添付されています。
- コンソールユニット取り付けの詳細は、コンソールユニットのユーザーズガイドの「ラックへの取り付け」の「ケーブルの接続」を参照してください。

- (1) コンソールユニットのLCDケーブルを、コンソールユニット背面のキーボード/マウス/モニタコネクタに接続します。
- (2) スイッチユニット接続ケーブルのモニタコネクタを、サーバ接続コネクタの1つ（例えば1）に接続します。
- (3) ブレード収納ユニット背面のモニタ/キーボード/マウスコネクタを接続します。
- (4) コンソールユニットに添付されている電源ケーブルを、コンソールユニット背面のACインレットに接続し、プラグをコンセントに接続します。
- (5) コンソールユニットの電源ケーブルは、コンソールユニットに添付のケーブルタイで結束してください。

図 4-1-a



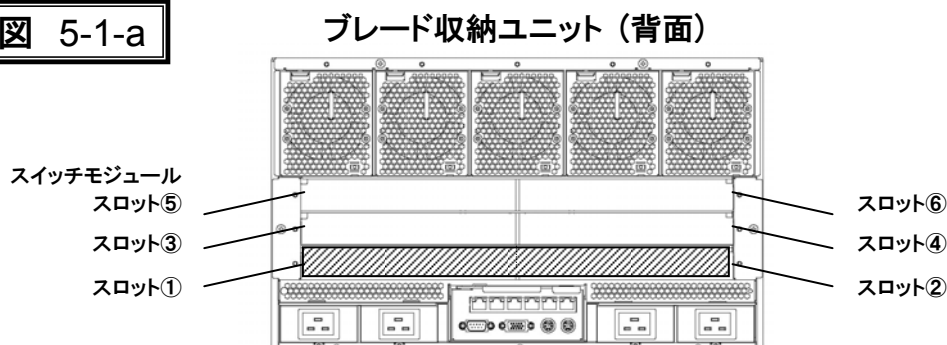
Step 5 スイッチモジュールの搭載

本セットに含まれるL2SW(2台)またはスルーカード(1台)は、あらかじめスイッチモジュールスロット①、② (図 5-1-a参照)に取り付けられた状態で出荷されます。

A

B

図 5-1-a



増設スイッチモジュール/スルーカードおよび増設ブレード用メザニンカードが下記のものから構成される場合は、「付録 A」のフローチャートを参照して、該当する構成(英字)を確認してください。

●スイッチモジュール/スルーカード

- GbE スルーカード
- GbE インテリジェントスイッチ(L2)
- GbE インテリジェントスイッチ(L3)
- 4G FCスルーカード
- FCスイッチ(12ポート)

●ブレード用メザニンカード

- 1000BASE-T(2ch)接続ボード
- 1000BASE-T(4ch)接続ボード
- 1000BASE-T(2ch)接続ボード(iSCSI対応)
- 1000BASE-T(4ch)接続ボード(iSCSI対応)
- Fibre Channelコントローラ(2ch)

なお、以下の条件の1つ以上に該当する場合は、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドの「設置」-「スイッチモジュール」を参照して、適切な構成を確認してください。(「付録 A」のフローチャートの対象外です。)

- ・ 上記以外の増設スイッチモジュール/スルーカードまたは増設ブレード用メザニンカードを含む場合
- ・ 本セットに含まれるL2SWまたはスルーカードの搭載位置を変更する場合
- ・ CPUブレードによってブレード用メザニンカードの構成が異なる場合

Step 6 CPUブレードの搭載

ブレード収納ユニットにCPUブレード(別売のサーバ装置)を搭載します。



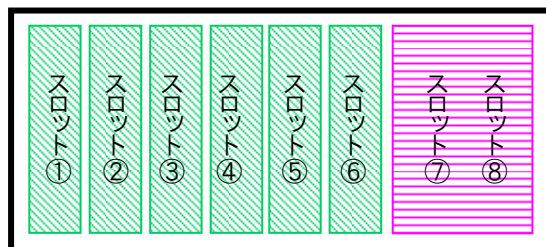
- 本セットのブレード収納ユニットや電源ユニット(AC100V 対応)で運用できる CPU ブレードについては、SIGMABLADE シリーズの構成ガイドを参照してください。

(1) CPUブレードの搭載位置を決めます。



- 左のスロットから順に搭載します。
- Express5800/120Bb-m6 のような 2 スロット幅を占有する CPU ブレードは以下のスロットに実装可能です。また、増設 HDD ブレード AD106a は、以下のスロットに、接続する CPU ブレードとペアで実装します。
 - スロット 1、2
 - スロット 3、4
 - スロット 5、6
 - スロット 7、8
- 本セットと組み合わせ可能な CPU ブレードおよび CPU ブレードのオプション類については SIGMABLADE シリーズのシステム構成ガイドを参照してください。(電源電圧および UPS の対応について特にご注意ください。)

搭載例



(2) ブレード用メザニンカードの増設/搭載位置の変更が必要な場合は、増設/搭載位置の変更を行います。



ブレード用メザニンカードの取り付け位置については、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドの「設置」-「スイッチモジュール」を参照してください。ブレード用メザニンカードの取り付け/取り外しについては、CPU ブレードのユーザーズガイドの「ハードウェア編」-「内蔵オプションの取り付け」-「ブレード用メザニンカード」を参照してください。



ブレード収納ユニットのロック機構はセットされた状態ですか？(ブレード収納ユニットのロック機構画セットされた状態でないと、CPU ブレードをブレード収納ユニット(のスロット 1)に搭載させることはできません。)。ロック機構およびロック機構のセットの仕方については、図 2-3-b を参照してください。)

(3) CPUブレードをブレード収納ユニットに搭載します。ブランクカバーが取り付けられている場合は取り外す必要があります。



- CPU ブレードの搭載方法についての詳細は、CPU ブレードのスタートアップガイドを参照してください。
- CPU ブレードを取り付けるスロットにブランクカバーが取り付けられている場合は、あらかじめ前面にあるレバーをつまんでロックをはずし、引き出してブランクカバーを取り外しておく必要があります。(ブランクカバーの取り外しについての詳細は CPU ブレードのスタートアップガイドを参照してください。)

~ Memo ~

[illegible]

Step 7 電源ON

A

本Stepの作業は(UPS付)セットと(UPSなし)セットで異なります。
ご購入されたセットにあった手順をご覧ください。

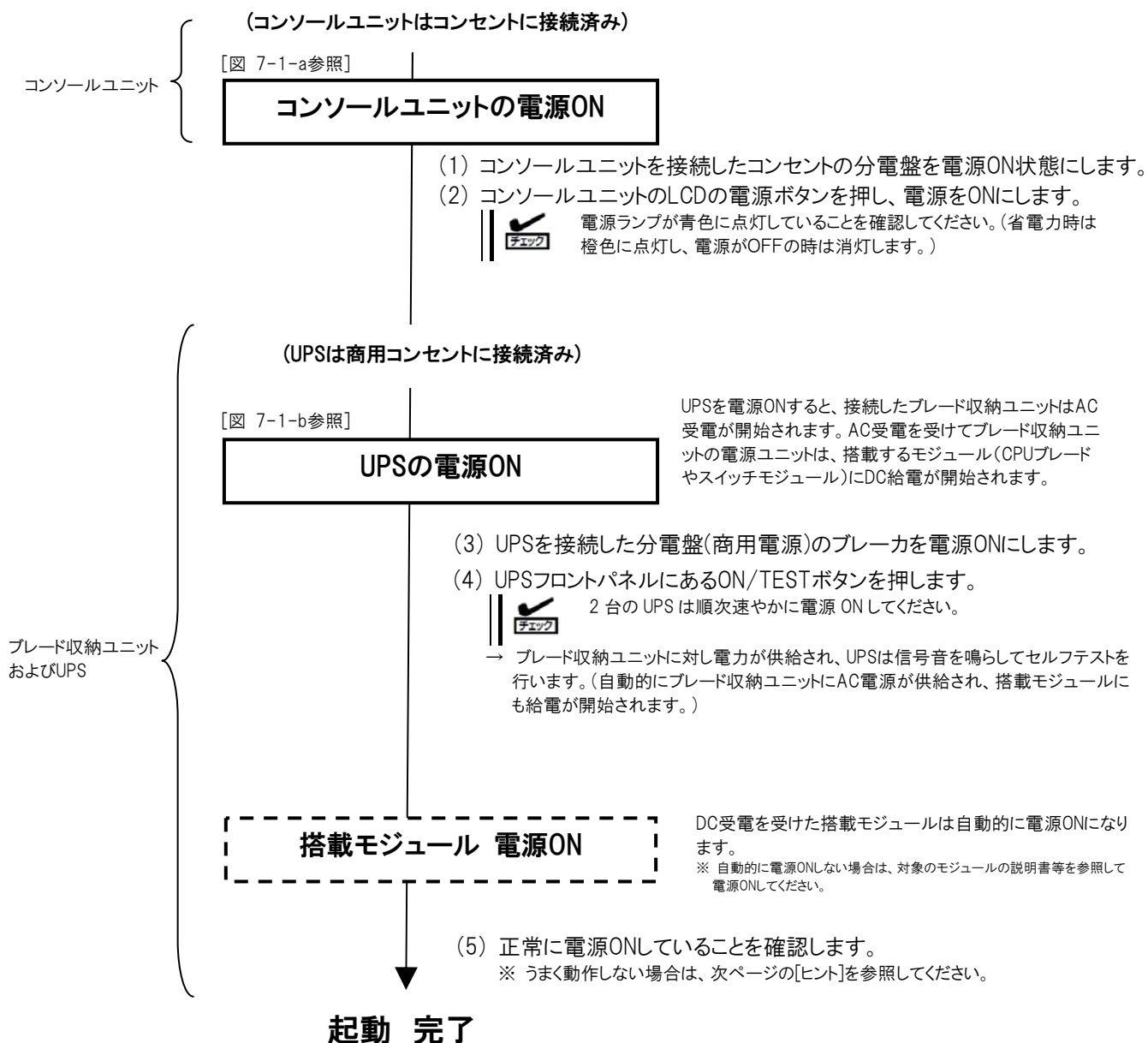
(UPS付)セットの場合

以下の図およびUPS取扱説明書、コンソールユニット・ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照して、電源をONします。



必要な電源設備については、「UL9020-A64 SIGMABLADE コンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」(A3 紙面)を参照してください。

電源ONフロー





- 以下の正常な状態になっていることを確認してください。(ランプの位置については、各装置の説明書等を参照してください。また、AC 電源が供給され始めてから、起動が完了するまで、しばらく時間がかかります。)

- SIGMABLADE モニター(ブレード収納ユニット前面の LCD)に“SYSTEM STATUS NORMAL”と表示されている。
- SIGMABLADE モニターの Power ランプが緑色点灯
- SIGMABLADE モニターの Status ランプが緑色点灯

- すべての電源ユニットの Power ランプが緑色点灯
- すべてのファンユニットのファンランプが消灯 (起動時にはアンバー色に 3 回点滅して、消灯します)

- すべての CPU ブレードの POWER ランプが緑色点灯
- すべての CPU ブレードの STATUS ランプが緑色点灯

- すべての L2SW またはスルーカードの STATUS ランプが緑色点灯

※ 他のスイッチモジュール/スルーカードを増設している場合は、それぞれのマニュアル類を参照して、正常な状態であることを確認してください。

- すべての UPS のオンライン LED が点灯

- SIGMANBLADE モニターに「SWMn IFmiss Alm」(n=1~6)が表示されている場合は、本書の「困ったときは」を参照してください。
- SIGMANBLADE モニターに「Error」が表示されたり、しばらく待っても CPU ブレードの電源が ON にならない場合は、ブレード収納ユニットのユーザズガイドの「困ったときは」の「CPU ブレードが電源 ON しない」を参照してください。(CPU ブレードが電源 ON 状態は、CPU ブレード前面の POWER ランプを確認することで判別できます。電源 ON 状態の場合は、CPU ブレードの POWER ランプが緑色点灯します。)

図 7-1-a

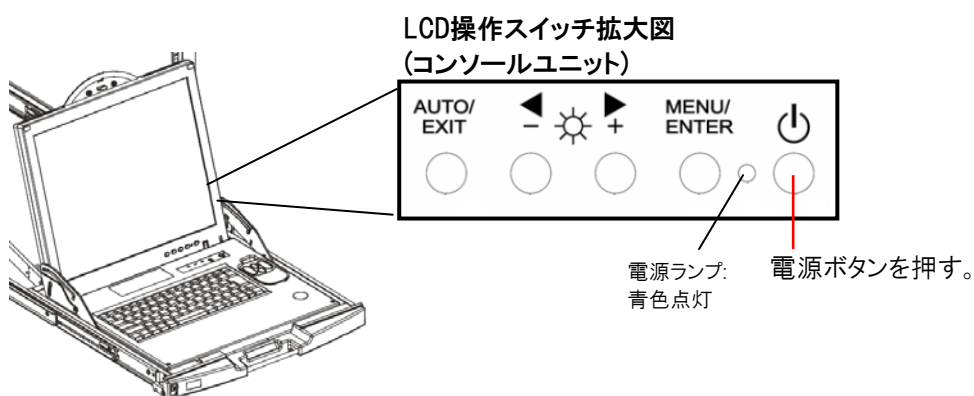
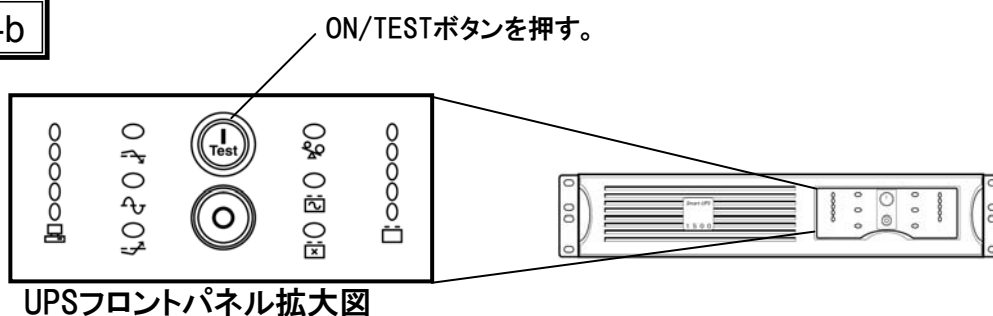


図 7-1-b



(UPSなし)セットの場合

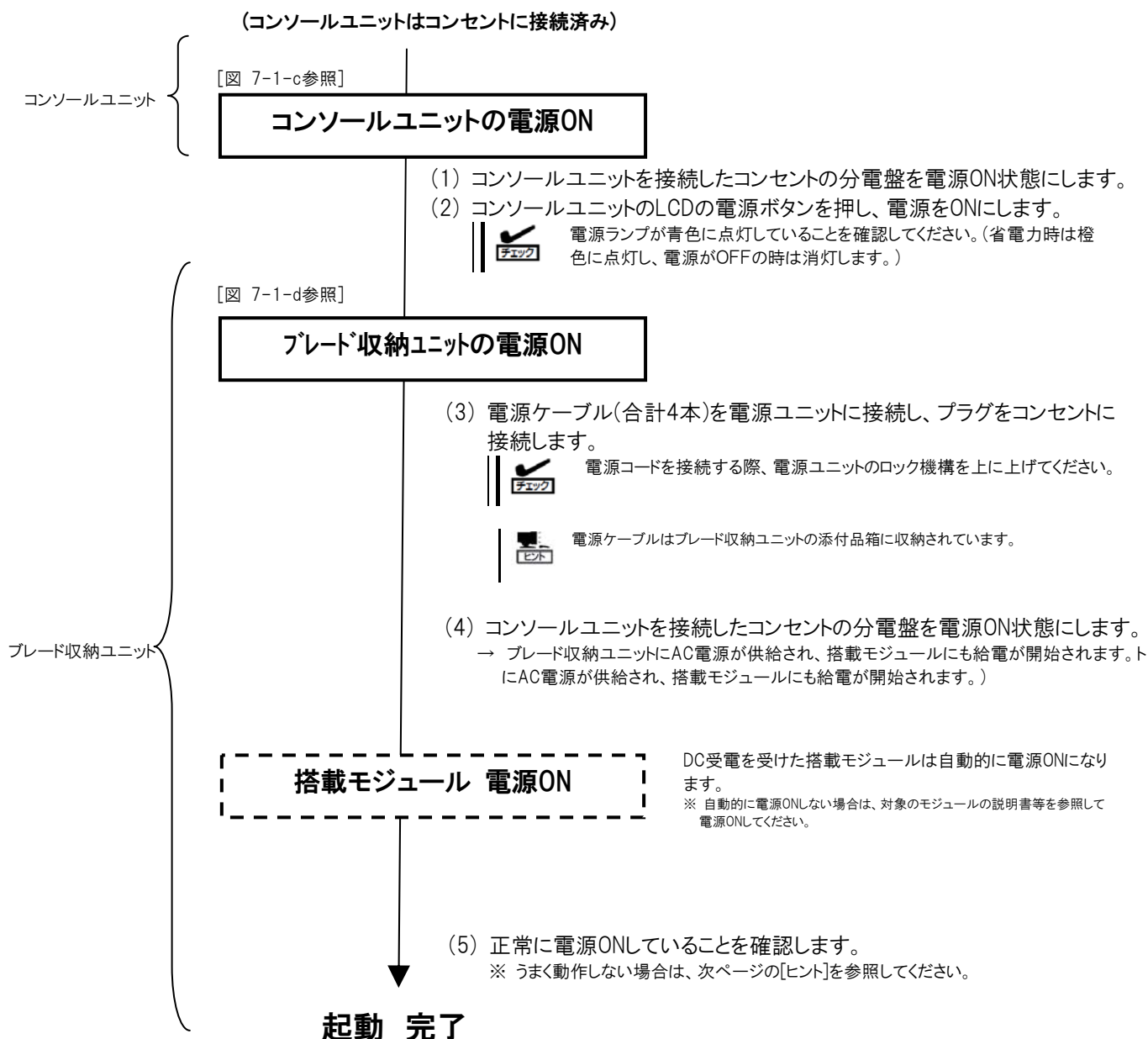
以下の図およびコンソールユニット・ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照して、電源をONします。



必要な電源設備については、「UL9020-A64 SIGMABLADE コンパクトサーバ統合セット簡単設定ガイド」(A3 紙面)を参照してください。

B

電源ONフロー





- 以下の正常な状態になっていることを確認してください。(ランプの位置については、各装置の説明書等を参照してください。また、AC 電源が供給され始めてから、起動が完了するまで、しばらく時間がかかります。)

-SIGMABLADE モニター(ブレード収納ユニット前面の LCD)に“SYSTEM STATUS NORMAL”と表示されている。
 -SIGMABLADE モニターの Power ランプが緑色点灯
 -SIGMABLADE モニターの Status ランプが緑色点灯

-すべての電源ユニットの Power ランプが緑色点灯
 -すべてのファンユニットのファンランプが消灯 (起動時にはアンバー色に 3 回点滅して、消灯します)

-すべての CPU ブレードの POWER ランプが緑色点灯
 -すべての CPU ブレードの STATUS ランプが緑色点灯

-すべての L2SW またはスルーカードの STATUS ランプが緑色点灯

※ 他のスイッチモジュール/スルーカードを増設している場合は、それぞれのマニュアル類を参照して、正常な状態であることを確認してください。

- SIGMANBLADE モニターに「SWMn lFmiss Alm」(n=1~6)が表示されている場合は、本書の「困ったときは」を参照してください。
- SIGMANBLADE モニターに「Error」が表示されたり、しばらく待っても CPU ブレードの電源が ON にならない場合は、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドの「困ったときは」の「CPU ブレードが電源 ON しない」を参照してください。(CPU ブレードが電源 ON 状態は、CPU ブレード前面の POWER ランプを確認することで判別できます。電源 ON 状態の場合は、CPU ブレードの POWER ランプが緑色点灯します。)

図 7-1-c

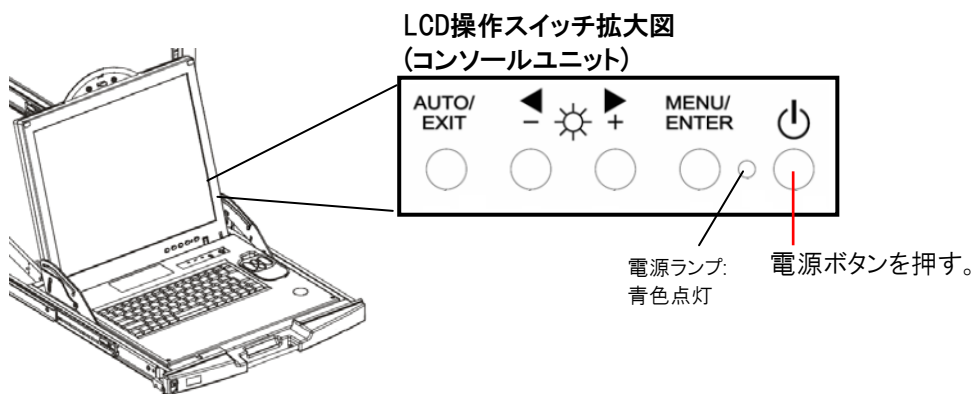
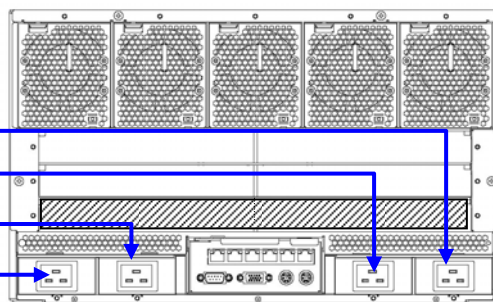


図 7-1-d

電源ケーブルのプラグ
をコンセントに接続する。

AC100Vコンセント x4
(お客様設備)



電源ケーブルを
電源ユニットに接続する。

~ Memo ~

[illegible]

Step 8 EMカードの設定

Step8-1 EM カードの設定内容を確認します

本セットに添付されるEMカードは、ブレード収納ユニット(SIGMABLADE-M)に搭載し、CPUブレードやモジュール等、および接続するUPSの設定・管理を行うモジュールです。EMカードでは、以下の項目を必ず設定する必要があります。

設定項目	表示	初期値 (工場出荷時設定)	設定値 (変更後)	設定方法		
				SIGMA BLADE モニター	Web コンソール	コマンド ライン コンソール (設定 ファイル)
EMカードのネットワーク設定						
EMカード IPアドレス	IP Address	192.168.1.8	ご利用のネットワーク環境に応じた値に設定してください。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*2)	<input type="radio"/> (*3)
EMカード ネットマスク	Net Mask	255.255.255.0		<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*2)	<input type="radio"/> (*3)
EMカード ゲートウェイ IPアドレス	DEF Gateway	192.168.1.254		<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*2)	<input type="radio"/> (*3)
EMカード DHCPゲートウェイ IPアドレス	←同左	192.168.1.254		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)
EMカード DHCPベース IPアドレス(*1)	←同左	192.168.1.128		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)
電源設定						
電源冗長モード	←同左	AC二重化モード (N+N冗長)	個別電源冗長モード (N+1冗長)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)
電源制御ポリシー	←同左	CPU性能モード	冗長維持モード or 冗長回復モード	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)
UPS管理						
UPS管理機能	←同左	無効	有効	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)
UPS／電源ユニット構成	←同左	手動設定	自動設定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)
運用に必要な最小UPS個	←同左	0 (個)	2 (個)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (*3)

*1 本書では、各CPUブレード、スイッチモジュール(およびUPS)のマネージメント/FのIPアドレスを「EMカードDHCPベースIPアドレス」でまとめて設定する方法をご紹介します。(この場合、連続したIPアドレスが必要です。) 個々のIPアドレスを個別に設定する方法については、EMカードのユーザーズガイドの「Webコンソール機能の使い方」-「環境設定」を参照してください。

*2 本書では、SIGMABLADEモニターを用いた設定方法をご紹介します。(Webコンソールを用いた設定方法については、EMカードのユーザーズガイドの「Webコンソール機能の使い方」-「環境設定」を参照してください。)

*3 本書では、SIGMABLADEモニターまたはWebコンソールを用いた設定方法をご紹介します。(コマンドラインコンソールの設定ファイルを用いた設定方法については、EMカードのユーザーズガイドの「コマンドコンソール機能の使い方」を参照してください。)

Step8-2 SIGMABLADE モニターから設定します

以下の手順で SIGMABLADE モニターを操作し、最低限のネットワーク設定を行います。(その他のネットワーク設定や UPS 関連の設定は、次の Step 8-3 で、Web コンソールから行います。)

A



SIGMABLADE モニターは、ブレード収納ユニット装置前面の LCD を指します。

B

- (1) ブレード収納ユニットの電源が ON になり診断が完了すると、SIGMABLADE モニターにトップ画面 [SYSTEM STATUS NORMAL]が表示されるので、[Menu]ボタンを押します。

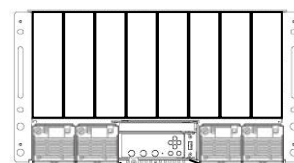
→メインメニュー(Main Menu)が表示されます

- (2) [↓]ボタンを 4 回押して「5:System CONFIG」にカーソルに合わせて、[Enter]ボタンを押します。

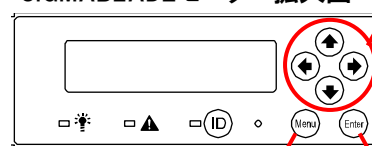


[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押すことでカーソルを上下に移動させることができます。

ブレード収納ユニット(前面)



SIGMABLADEモニター拡大図



[←][→][↑][↓]
ボタン

[Menu]ボタン

[Enter]ボタン

→ パスワード入力画面[Enter Password]が表示されます

- (3) パスワード(4 桁の数字)が“0000”と表示されていることを確認し、[Enter]ボタンを押します。

→ [EM CONFIG]画面が表示されます。



初期パスワードは“0000”です。EM カードのユーザズガイドを参照して、パスワードを変更してください。

- (4) ご利用の環境にあった以下の EM カードのネットワーク関連項目を順に設定します。

項目	工場出荷時設定	変更後	備考
EMカードネットワーク			
1: IP Address	192.168.1.8	ご利用のネットワーク環境に応じた値に設定してください。	EMカードのIPアドレス
2: Net Mask	255.255.255		EMカードのサブネットマスク
3: DEF Gateway	192.168.1.254		EMカードのデフォルトゲートウェイのIPアドレス



- <IP Address>の最後の数値は 4 の倍数になっていますか？
4 の倍数でない場合、EM カードが IP アドレスの最終 2 ビットを “00”(2 進数) に設定します。
- ここで設定した値(EM カードの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの IP アドレスを記録しておきます。
(特に EM カードの IP アドレス(1: IP Address)は、この後の Step でも使用します。

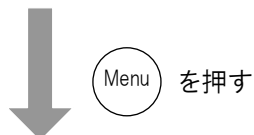


- 項目選択画面では、[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押すことで項目のカーソルを上下に移動させることができます。また、[Enter]ボタンを押すとカーソル位置の項目が選択されます。
- 各項目の設定で画面では、[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押すことで、カーソル上の数字を 0~9 の範囲で 1 つずつ変更できます。また、[→]ボタンまたは[←]ボタンを押すことで、カーソルを左右に移動させることができます。設定後、[Enter]ボタンを押すことで、入力を確定します。[Menu]ボタンを押すことで、メインメニューに戻ります。

図 8-2-a

SIGMABLADEモニター表示

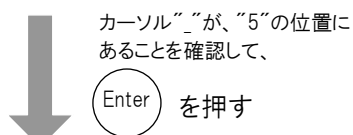
SYSTEM STATUS
NORMAL



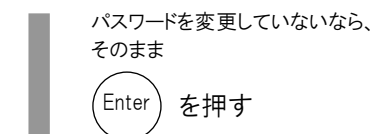
Main Menu
1:KVM/DVD Sel ↓



4:SWM INFO ↑
5:System CONFIG ↓

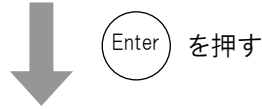


Enter Password
0000



1: IP Addressの変更

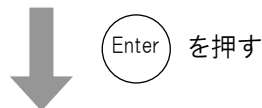
EM CONFIG
1:IP Address ↓



Set IP Address
192. 168. 001. 008



Set IP Address
192. 168. 001. 012



設定した値が有効になります



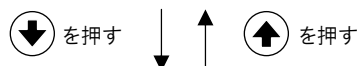
EM CONFIG
1:IP Address ↓

元の画面に戻ります。



1:IP Address ↑
2:Net Mask ↓

同様に、
2: Net Mask
3: DEF Gateway
を設定します。



2:Net Mask ↑
3:DEF Gateway ↓

3項目の設定が完了したら、



SYSTEM STATUS
NORMAL

A

B

Step8-3 EMカードのWebコンソールから設定する

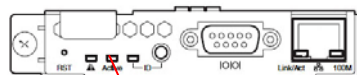
以下の手順で EM カードの Web コンソールを操作して電源ユニット関連(および UPS 関連)の設定を行います。

- (1) お手持ちの PC のネットワークポートとブレード収納ユニットのアクティブ EM のポート(「EM1 ポート」または「EM2 ポート」; チェック参照)をネットワークケーブルで接続します。



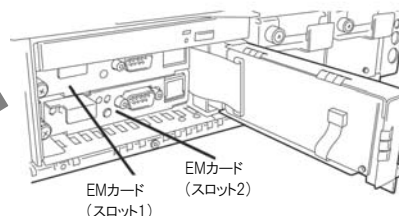
アクティブ EM のポートに接続します。2 台の EM カードの内 ACTIVE ランプが緑色点灯している方がアクティブ EM です。アクティブ EM スロット 1 なら「EM1 ポート」、スロット 2 なら「EM2 ポート」に接続してください。

EMカード(前面)



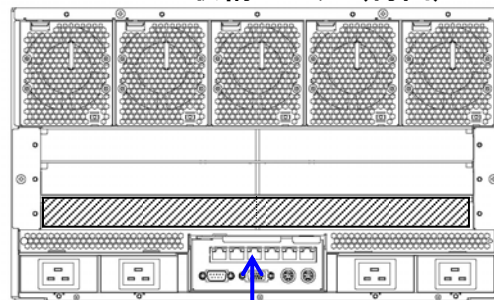
ACTIVEランプが緑色点灯
→ アクティブEM

SIGMABLADEモニターを開いた状態



ネットワークスイッチ/ハブ装置等を経由せずに PC とブレード収納ユニットを直結する場合は、ネットワークケーブルにはクロスケーブルを使用するか、AUTO MDI-X 機能(ストレート/クロスケーブル自動識別機能)をもつネットワークカードを搭載した PC で接続してください。

ブレード収納ユニット(背面)



PC
(お客様設備)



ネットワークケーブル
(お客様設備)

「EM1 ポート」または
「EM2 ポート」に接続する。

- (2) お手持ちの PC の Web ブラウザから下記 URL にアクセスします。(＜EM カードの IP アドレス＞には Step 8-2 の(4)で設定した IP Address を入力します。例: https://192.168.1.8/index.html)



- Web ブラウザの以下の項目は有効になっていますか？

- Cookie
- JavaScript

本機能は、これらを使用しますので、本機能をご利用いただく際には、上記の項目を「有効」にしてください。



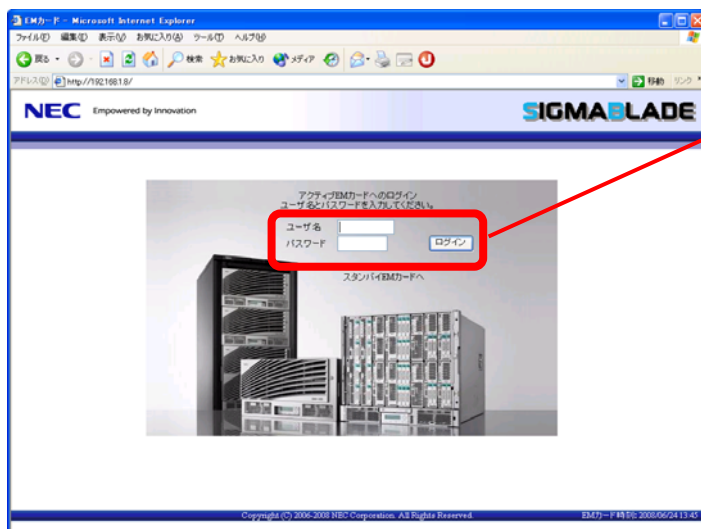
- EM カードの Web コンソール機能は、Web ブラウザを介して搭載モジュールや周辺装置の設定/管理を行うためのものです。詳しくは、EM カードのユーザーズガイドの「Web コンソール機能の使い方」を参照してください。
- セキュリティ上、上記のように SSL を使うことを推奨します。SSL が利用できない環境においては、「http:」でアクセスすることも可能です。
- うまく接続できない場合は、プロキシサーバ等の PC のネットワーク設定を確認してください。

URL: https://＜EMカードのIPアドレス＞/index.html

→Webコンソールのログイン画面が表示されます



- (3) Web コンソールのログイン画面からログインします。



工場出荷時設定

ユーザー名	admin
パスワード	admin

※ すべて小文字



セキュリティのため、初期パスワードから変更してください。(パスワードの変更方法については、EM カードのユーザーズガイドを参照してください。)

-

ご利用のネットワーク環境に応じた値に設定してください。

- Web コンソールの詳細および各種モード、「ベース IP アドレス」についての詳細は、EM カードのユーザーズガイドの「Web コンソール機能の使い方」を参照してください。
- 本機能で UPS の IP アドレスを設定した場合、どの UPS にどの IP アドレスが割り当てられるかは不定です。また、ブレード収納ユニットの AC 電源の OFF→ON を行うたびに、割り当てが変わる可能性があります。割り当てられた IP アドレスと UPS の対応は、以下の方法で確認することができます。（詳しくは、EM カードのユーザーズガイドの「Web コンソール機能の使い方」を参照してください。）
 - ① EM カードの Web コンソールから、「ステータス」-「一覧」で UPS の一覧表示を行う。
 - ② 確認したい UPS の IP アドレスを確認し、対応する「詳細」ボタンを押して UPS の詳細情報表示を行う。
 - ③ 「識別情報」の「ON」ボタンを押す。 → 対応する UPS の前面のランプ(LED)群が点滅し、信号音を鳴らします。
 - ④ 確認し終わったら、「識別情報」の「OFF」ボタンを押す。 → ランプ(LED)群が消灯し、信号音も停止します。
- EM カードによる UPS 管理を使用して、入力電源異常回復時に EM カードによる CPU ブレードの再起動機能をご利用になる場合は、電力の天井制御をご利用になれません。

(UPS付)セットの場合

EMカードにはUPSの管理機能があります。ブレード収納ユニットに搭載するモジュールと同様に、管理対象のUPSの設定・管理を行ったり、UPSの異常を検出することができます。また、復電(停電後に電力供給が再開すること)した後、搭載するCPUブレードの電源を自動的にONにすることもできます。



- あらかじめ EM カードの「E-mail 通報機能」の設定を行っておくと、UPS の異常を含む障害時に指定の E-mail アドレスに通報メールが送付されます。(「E-mail 通報機能」の設定については、EM カードのユーザーズガイドの「Web コンソール機能の使い方」-「E-Mail 通報設定」を参照してください。)

(6) 「環境設定」が選択されていることを確認します。(選択されていない場合は、メニューバーの「環境設定」をクリックしてください。)

(7) 画面を下にスクロールさせて該当項目を探し、下表の内容に設定変更します。

項目	工場出荷時設定	変更後	備考
UPS管理			
UPS管理機能	無効	有効	
UPS/電源ユニット構成	手動設定	自動設定	「自動設定」を選択すると、UPS/電源ユニット構成をEMカードが自動で検出します。
運用に必要な最小UPS個	0 (個)	2(個)	ブレードシステムを運用するのに最低限必要なUPSの台数を指定します。UPSへの入力途絶えるなどして、正常なUPSの台数が、ここで指定した数を下まわった段階でCPUブレードのシャットダウンを開始します。 なお、CPUブレードを自動でシャットダウンさせたくない場合は、この設定を“0個”のままにしてください。



- 「UPS/電源ユニット構成」を「自動設定」に設定した場合、EMカードが自動で構成を検出します。その場合、この画面には認識したUPS/電源ユニットの数は表示されません。正しく認識されているか否かは、ステータス画面で確認してください。
- CPU ブレードの OS が Windows 2003 Server などの場合、セキュリティポリシーのうち「システムをシャットダウンするのにログオンを必要としない」を有効にする必要があります。

EMカード - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://192.168.1.12/cgi-bin/HojuCgic?IMAGEID=100501000000

NEC Empowered by Innovation SIGMA BLADE

Chassis No.2 ステータス | ラック情報 | 電力情報 | 製品情報 | 環境設定 | 診断 | ブート制御 | パスワード設定 | ログ管理 | アップデート | EMカードについて | ログアウト

UPS管理

項目名	設定値
UPS管理機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
UPS/電源ユニット構成	<input type="radio"/> 手動設定 <input checked="" type="radio"/> 自動設定 UPS 0 個 電源ユニット 1 個 : 選択
運用に必要な最小UPS個数	2 個 (ブレードを自動でシャットダウンさせない場合は0個としてください)
入力電源異常確認時間	60 秒
ブレードシャットダウン完了待ちのタイムアウト時間	300 秒
ブレード電源オン完了待ちのタイムアウト時間	300 秒
通信途絶と判断するまでの待ち時間	180 168 秒
UPSオンライン待ち時間	180 秒
ブレードシャットダウン実行後のUPS状態	<input checked="" type="radio"/> バッテリ運転のUPSをスリープ状態にする <input type="radio"/> 全UPSを一時スリープ状態にする
UPSがスリープするまでの時間	90 秒
UPS復電後のブレード再起動機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
SNMP GETコミュニティ名	public
SNMP SETコミュニティ名	private
IPアドレスの割り振り方法	<input checked="" type="radio"/> DHCP <input type="radio"/> 固定IPアドレス (UPSに設定された値を入力してください)
UPS1固定IPアドレス	0 0 0 0
UPS2固定IPアドレス	0 0 0 0
UPS3固定IPアドレス	0 0 0 0
UPS4固定IPアドレス	0 0 0 0

Copyright (C) 2006-2008 NEC Corporation. All Rights Reserved. EMカード時刻: 2008/06/20 10:46

(8) 画面を下までスクロールさせた後、「適用」ボタンをクリックします。

→ Web画面に書き込まれた内容をチェックし、問題が無い場合は、設定ファイルに内容を書き込み、適用を実行します。



- 適用を行うと、EM カード(2台とも)をリブートします。EM カードを 2 枚搭載している場合は、双方の EM カードをリブートします。リブート中は、ブリッジ機能や SNMP 機能も停止しますので、CPU ブレードやスイッチモジュールのマネジメント LAN を介した接続が一時的に切断されます。また、ESMPRO/ServerManager によるシステム監視も一時的に不可になります。タイムアウトなどになりましたら、アクティブ EM のリブートが完了した後に再接続するようにしてください。Web コンソールの詳細および各種モード、「ベース IP アドレス」についての詳細は、EM カードのユーザーズガイドの「Web コンソール機能の使い方」を参照してください。

A

EMカード - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 停止 印刷 検索 検索 お気に入り メディア 送信 受信 送信 受信

アドレス(AD) http://192.168.1.12/cgi-bin/HojuCe/cer?IMAGEID=100501000000

ここから日本語で検索(JWord) 移動 リンク

NEC Empowered by Innovation

SIGMA BLADE

Chassis No.2 ステータス | ラック情報 | 電力情報 | 製品情報 | 環境設定 | 診断 | プート制御 | パスワード設定 | ログ管理 | アップデート | EMカードについて | ログアウト

SNMP SETコミュニティ名 private

IPアドレスの割り振り方法 ☒ DHCP ☐ 固定IPアドレス (UPSIに設定された値を入力してください)

UPSI1固定IPアドレス 0 0 0 0

UPSI2固定IPアドレス 0 0 0 0

UPSI3固定IPアドレス 0 0 0 0

UPSI4固定IPアドレス 0 0 0 0

外部認証

項目名	設定値
外部認証	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
RADIUS認証	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
RADIUSサーバーのIPアドレス	0 0 0 0
RADIUSサーバーのポート番号	1812
RADIUSサーバーのシークレット	***** <input type="checkbox"/> 変更する

その他

項目名	設定値
SIGMA BLADEモニター バックライトオフまでの時間	1 分
syslogサーバ	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
syslogサーバのIPアドレス	0 0 0 0
<input checked="" type="button"/> 適用 <input type="button"/> リセット	

Copyright (C) 2006-2008 NEC Corporation. All Rights Reserved. EMカード時刻: 2008/06/20 10:49

「適用」をクリック

(UPS なし)セットの場合

(6) 画面を下までスクロールさせた後、[適用]ボタンをクリックします。

→ Web画面に書き込まれた内容をチェックし、問題が無い場合は、設定ファイルに内容を書き込み、適用を実行します。



適用を行うと、EM カード(2 台とも)をリブートします。EM カードを 2 枚搭載している場合は、双方の EM カードをリブートします。リブート中は、ブリッジ機能や SNMP 機能も停止しますので、CPU ブレードやスイッチモジュールのマネジメント LAN を介した接続が一時的に切断されます。また、ESMPRO/ServerManagerによるシステム監視も一時的に不可になります。タイムアウトなどになりましたら、アクティブEMのリポートが完了した後に再接続するようにしてください。Web コンソールの詳細および各種モード、「ベース IP アドレス」についての詳細は、EM カードのユーザーガイドの「Web コンソール機能の使い方」を参照してください。

B

EMカード - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://192.168.1.12/cgi-bin/HojuCeIce?MAGEID=100501000000

NEC Empowered by Innovation SIGMA BLADE

Chassis_No.2 ステータス ラック情報 電力情報 製品情報 環境設定 診断 プート制御 パスワード設定 ログ管理 アップデート EMカードについて ログアウト

SNMP SETコミュニティ名 private

IPアドレスの割り振り方法 ☒ DHCP ☐ 固定IPアドレス(UPSに設定された値を入力してください)

UPS1固定IPアドレス 0 0 0 0

UPS2固定IPアドレス 0 0 0 0

UPS3固定IPアドレス 0 0 0 0

UPS4固定IPアドレス 0 0 0 0

外部認証

項目名	設定値
外部認証	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
RADIUS認証	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
RADIUSサーバーのIPアドレス	0 0 0 0
RADIUSサーバーのポート番号	1812
RADIUSサーバーのシークレット	***** <input type="checkbox"/> 変更する

その他

項目名	設定値
SIGMA BLADEモニター バックライトオフまでの時間	1 分
syslogサーバ	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
syslogサーバのIPアドレス	0 0 0 0

適用 リセット

Copyright (C) 2006-2008 NEC Corporation. All Rights Reserved. EMカード時刻: 2008/06/20 10:49

「適用」をクリック

~ Memo ~

[illegible]

Step 9 スイッチモジュールの設定

A

(L2SW付)セットの場合

添付のL2SWは、特に設定を行わなくても、基本的なスイッチング機能を使用することができます。ただし、VLAN等の高度な機能を使用するためには設定が必要です。(高度な機能の利用方法の詳細は、L2SWのマニュアル類を参照してください。)

B

(スルーカード付)セットの場合

添付のスルーカードは通常、設定不要です。(詳細は、スルーカードのユーザーズガイドを参照してください。)

スイッチモジュール/スルーカードを増設した場合

セットに含まれる製品以外のスイッチモジュール/スルーカードをご利用の場合は、ご利用のスイッチモジュール/スルーカード添付の説明書等を参照してください。

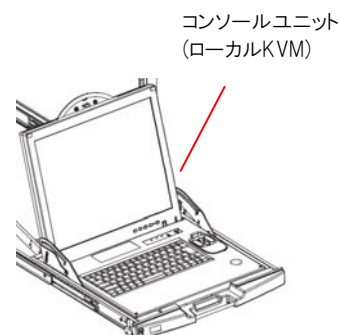
Step 10 CPUブレードの設定

ブレード収納ユニットに搭載したCPUブレードのコンソール画面へのアクセスには、以下のようないくつかの方法があります。ここでは、OSD(On Screen Display)機能を使用した接続方法を紹介します。(OSD機能については、[ヒント]の第1項を参照してください。)

- ・ OSD(On Screen Display)機能を使用した接続
- ・ EXPRESSSCOPEエンジンを使ったりリモート接続
- ・ SUVケーブルを使用した直接コンソール接続 (*)

*保守作業やBIOS/各種FW(ファームウェア)のアップデートを行う場合に限り

Step 4 で接続したコンソールユニット(ローカルKVM)、ブレード収納ユニットに内蔵のDVDドライブ(ローカルDVD)およびブレード収納ユニット前面のUSBポート(ローカルUSBポート)は、OSD機能によりブレード収納ユニットに搭載したCPUブレードごとに切替えて利用することができます。

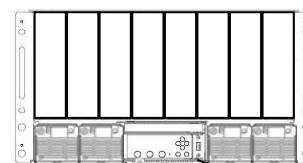


- CPU ブレードの電源を ON した後は、OS が起動するまで OSD 機能による切り替え操作を実施しないでください。
- CPU ブレードで Windows が起動している場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」を実行してから DVD/USB を切り替えてください。

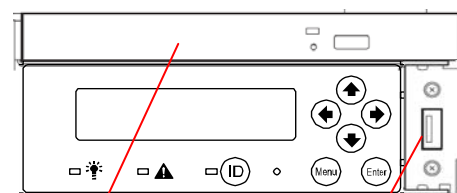


- ブレード収納ユニットの OSD(On Screen Display)機能により、ローカル KVM/ローカル DVD/ローカル USB ポートをどの CPU ブレードに接続するかを変更したり、CPU ブレードの名前を表示/設定したりすることができます。(詳しくは EM カードのユーザーガイドの「OSD(On Screen Display)機能の使い方」を参照してください。)
- Express5800/120Bb-d6, B120a-d をご利用の場合
120Bb-d6, B120a-d は HDD レスモデルです。あらかじめ、外付けストレージ装置、スイッチ装置等の接続・設定を行い、HDD が認識できる状態にしておく必要があります。
- SAN ブート利用時は、別途設定が必要です。詳しくは「SIGMABLADE シリーズ SAN ブート導入ガイド」を参照してください。
8 番街: <http://www.express.nec.co.jp/>
※ 8 番街 上の検索窓から、「SIGMABLADE シリーズ SAN ブート導入ガイド」で検索してください。

ブレード収納ユニット(前面)



SIGMABLADE モニター付近 拡大図



ローカルDVD

ローカルUSBポート

図 10-1-a を参照しながら、以下の (1)~(5)の手順で搭載してください。

- (1) コンソールユニット(ローカルKVM)の「**Scroll Lock**」キーを**2回連続** で押します。

→ OSD機能の画面が表示されます。



- 工場出荷状態の場合は以下の初期値が表示されます。
Rack Name : Default_Rack_Name
Enclosure Name : Default_Chassis_Name
Blade Name : Blade-01 ~ Blade-08
[Rack Name]、[Enclosure Name]、[Blade Name]は EM カードから設定することができます。詳しくは EM カードのユーザーズガイドの「OSD(On Screen Display)機能の使い方」を参照してください。
- Express5800/120Bb-m6 のような 2 スロット幅を占有する CPU ブレードを実装した場合、実装した右側のスロットの Blade Name, Power の表示は初期値のままです。
- OSD 機能の画面は、キーボード部の右上面にある Hot-Key スイッチまたは、「Scroll Lock」キーの2回連続、「Num Lock」キーの2回連続、「Ctrl」+「Alt」+「Shift」キーの同時押しで呼び出す事ができます。詳しくは、コンソールユニットのユーザーズガイドを参照してください。

- (2) ローカルKVMの切り替えは、コンソールユニット(ローカルKVM)のLCD上のOSD機能の画面で、切り替えたいCPUブレードの**スロット番号をカーソルで選択** し、「**Enter**」キー を押します。

- (3) ローカルDVD/ローカルUSBの切り替えは、DVD/USB接続表示部で、切り替えたいCPUブレードの**スロット番号をカーソルで選択** し、「**Enter**」キー を押します。



CPU ブレードの切り替えは、この記述で説明しているカーソルでの選択以外に、数字キー(“1”~“8”)を押下する事で選択できます。詳しくはコンソールユニットのユーザーズガイドを参照してください。

- (4) 以降は通常のExpressサーバと同様に操作頂けます。必要に応じ、CPUブレードのハードウェアのセットアップおよびOSのセットアップとインストールを行ってください。(詳細はCPUブレードのユーザーズガイドの「ソフトウェア編」以降を参照してください。)

(5)



- 工場出荷状態の場合は以下の初期値が表示されます。
Rack Name : Default_Rack_Name
Enclosure Name : Default_Chassis_Name
Blade Name : Blade-01 ~ Blade-08
[Rack Name]、[Enclosure Name]、[Blade Name]は EM カードから設定することができます。詳しくは EM カードのユーザーズガイドの「xxx」を参照してください。
- Express5800/120Bb-m6 のような 2 スロット幅を占有する CPU ブレードを実装した場合、実装した右側のスロットの Blade Name, Power の表示は初期値のままです。

- (6) スロット1のCPUブレードについて必要な作業が完了したら、次のスロットのCPUブレードに移ります。(すべてのCPUブレードについて(2)~(4)の作業を行います。)



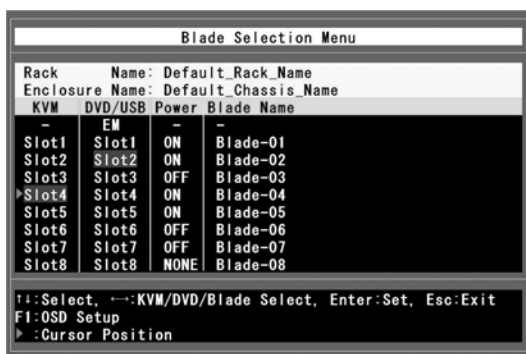
何も搭載しないスロットおよび Express5800/120Bb-m6 のような 2 スロット幅を占有する CPU ブレードの偶数番スロットは、セットアップやインストール等の作業の必要はありません。

- (7) 「**ESC**」キー を押して、OSDメニューを終了させます。

OSDメニューモードの起動

図 10-1-a

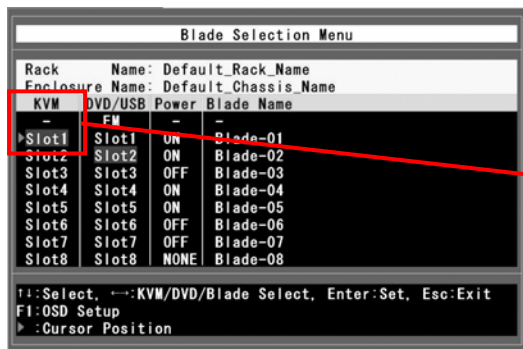
(1) Scroll Lock ×2 を押す



OSDメニューモード画面がコンソールユニット (ローカルKVM)の画面に表示されます。

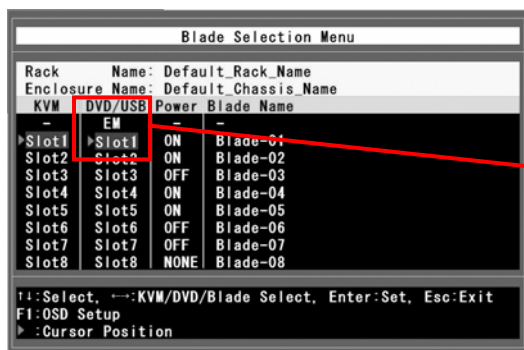
表示項目	説明
Rack Name	ラック名を表示します。
Enclosure Name	ブレード収納ユニット名 (エンクロージャ名) を表示します。
KVM	KVM選択状態を表示します。 選択されているCPUブレードのロット番号の背景が青色で表示されます。
DVD/USB	DVD/USB選択状態を表示します。 選択されているCPUブレードのロット番号、または、EMの背景が青色で表示されます。 EMIはEMカードを示します。
Power	CPUブレードの状態を表示します。 ON : CPUブレードの電源がONの状態 OFF : CPUブレードの電源がOFFの状態 NONE : CPUブレードが接続されていない状態 N/A : CPUブレードの状態が不明の場合
Blade Name	CPUブレード名を表示します。

(2) ↑ / ↓ を押して「KVM」のカーソルを「Slot1」にあわせてから、Enter を押す



ローカルKVMがスロット1のCPUブレードに接続されました。

(3) → を押して「DVD/USB」にカーソルを移動させた後、↑ / ↓ を押して「KVM」のカーソルを「Slot1」にあわせてから、Enter を押す



ローカルDVD/ローカルUSBがスロット1のCPUブレードに接続されました。

(4) ローカルKVM/DVD/USBがスロット1に接続された状態です。スロット1に搭載したCPUブレードの設定を行います。

(5) 順に他のスロットに搭載したCPUブレードについても、(2)~(4)の設定を行います。

(6) ESC を押す

OSDメニューモードの終了

次ページ以降に、CPUブレードの設定における補足情報があります。

[補足]

CPUブレードのシステムのセットアップについては、CPUブレードに添付の「スタートアップガイド」を参照してください。

-「システムのセットアップ ～カスタムインストール～」

-「システムのセットアップ ～ディスクレスモデル～」

-「EXPRESSBUILDERを使ったセットアップをする」



フロッピーディスクを使用する必要がある場合は、セットに添付されている「外付 FDD」を、ブレード収納ユニットの USB ポート(SIGMABLADE モニター右)に接続して使用してください。

以下に本セットに関わり深いBIOSの設定項目および設定値を示します。(BIOSの設定方法については、CPUブレードのユーザーズガイドの「システムBIOS」を参照してください。)

<BIOS設定例>

項目	メニュー	工場出荷時設定	変更後	備考
日付	「Main」→ 「System Time」、 「System Date」	—	システム運用前に、正しい日付、時刻を設定してください。	
AC-Link	「Server」-「Event Log Configuration」- 「AC-Link」	Last state	Power ON (UPS付)	復電後の自動的なCPUブレードの電源ONを行う場合に設定します。



- OS プレインストールモデルをご購入の場合は、OS のインストールは不要です。
- EM カードの UPS 管理機能ではなく、他の管理ツールを使用する場合は上記とは異なる設定をする必要がある場合があります。EM カードのマニュアルおよびご利用の管理ツールの説明書等を参照してください。
- SAN ブート利用時は、別途設定が必要です。詳しくは「SIGMABLADE シリーズ SAN ブート導入ガイド」を参照してください。
8 番街: <http://www.express.nec.co.jp/>
※ 8 番街 上の検索窓から、「SIGMABLADE シリーズ SAN ブート導入ガイド」で検索してください。



システムの連続運転をする前に、負荷装置を接続せずに、UPS の電源ケーブル(AC ケーブル)をコンセントに接続し、入力ブレーカを ON し **6 時間以上** 充電する必要があります。Step 2-5 で UPS のバッテリーを充電していない場合は、システムの連続運転をする前に、バッテリー充電してください。(充電の方法については Step 2-5 を参照してください。)

~ Memo ~

[illegible]

管理ツールのご紹介

本セットおよび本セットと組み合わせて使用するCPUブレード(サーバ装置)では、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。

各種リソースの冗長化などといったハードウェア本体が提供する機能と、CPUブレードに添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止または早期に復旧することができます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェアおよびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	(CPUブレード ^(※1))に標準装備)	ESMPRO/ServerManager ^(※3) ESMPRO/ServerAgent ^(※3)
ストレージ管理 (ディスク管理)	ハードディスクドライブ ^(※1) ディスクアレイコントローラ ^(※1)	ESMPRO/ServerManager ^(※3) ESMPRO/ServerAgent ^(※3) Windows標準のソフトミラーツール ^(※4) MegaRAID Storage Manager ^(※3) Universal RAID Utility ^(※3)
無停電電源装置(UPS) 管理	無停電電源装置(UPS) ^(※2) SmartUPS用SNMPカード ^(※2)	電源管理ツール ^(※5)
ネットワーク管理	CPUブレード ^(※1) または ブレード用メザニンカード ^(※1)	
リモート管理	(CPUブレード ^(※1))に標準装備)	ESMPRO/ServerManager ^(※3) ESMPRO/ServerAgent ^(※3) DianaScope ^(※3)

*1 別売の有償品

*2 (UPS付)セットには、標準で含まれます。(UPSなし)セットをご購入の場合も、後から対象製品のみをご購入頂けます。

*3 CPUブレードに標準添付されます。(CPUブレードによって添付ソフトウェアが異なる場合があります。)

*4 OSの持つ機能です。(OSプレインストールモデルか、別途OSをご購入ください。)

*5 具体的な製品情報については、SIGMABLADEのシステム構成ガイドの「ブレード収納ユニット(SIGMABLADE-M)」-「UPSの構成(ソフトウェア)」を参照してください。(有償ソフトウェア)

●CPUブレードに標準添付されるソフトウェアのご紹介

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentはCPUブレードにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。CPUブレードに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。



詳細は、CPU ブレード添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent インストールガイド」および CPU ブレードのユーザーズガイドの「ハードウェア編」-「Express 本体用バンドルソフトウェア」-「ESMPRO/ServerAgent」を参照してください。(ESMPRO/ServerAgent の使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。)

MegaRAID Storage Manager™

MegaRAID Storage Manager™は、ディスクアレイコントローラの監視・管理を行うアプリケーションです。MegaRAID Storage Manager™を使用することで、システム運用中のアレイの保守やイベント監視による通報を行うことができます。



詳細は、CPU ブレード添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」および CPU ブレードのユーザーズガイドの「ハードウェア編」-「Express 本体用バンドルソフトウェア」-「MegaRAID Storage Manager™」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知することや、障害発生時に迅速に保守を行うことができます。



エクスプレス通報サービスを有効にするには、契約等が必要となります。(CPU ブレードのユーザーズガイドの「ハードウェア編」-「Express 本体用バンドル

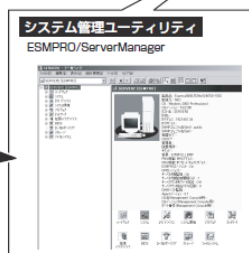
「エクスプレス通報サービス」は、お客様とNECをひとつに結び、安心・充実した運用と各種サポートを提供するユーティリティです。NECが提供するサポートサービス体系「Best Solutions システムサポートサービス」の基盤となるものであり、「ESMPRO/ServerAgent」が検出したトラブルやその兆候が現れた際にインターネットや公衆回線を介して「監視センター」に通報します。

これを受け、「監視センター」は、全国430カ所以上にあるNECフィールドの保守サービス拠点のうち、最も近い拠点に指示を出し、サービスエンジニアが先へ出向いてトラブルの未然回避や復旧処置を行います。なお、ご利用には、別途有償のハードウェア保守契約か、通報サービス契約が必要です。

オプションのディスクアレイコントローラや本体装置内蔵のアレイディスクの状態を監視・保守するユーティリティ。
本体にMegaRAID Storage Managerをインストールします。MegaRAID Storage Managerを別途管理PCIにもインストールしてリモートから監視・保守することも可能です。

一装置のさまざまな障害情報を収集し、状態の判定を行い異常を検出すると、ESMPRO/ServerManagerへアラート通報を行います。
一障害の予防対策として、事前に障害の発生を予測する予防保守機能をサポートしています。筐体内温度上昇やハードディスクドライブ変化などを事前に検出できます。
一装置の詳細なハードウェア構成情報、性能情報を取得できます。取得した情報はESMPRO/ServerManagerを通してどこからでも参照できます。

ESMPROはサーバシステムの安定稼働と、効率的なシステム運用を目的としたサーバ管理ソフトウェアです。本製品を導入することにより、装置の構成情報・性能情報・障害情報をリアルタイムに取得・監視・監視できるほか、アラート通報機能により障害の発生を即座に知ることができるようになります。



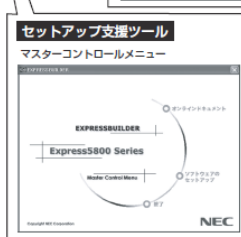
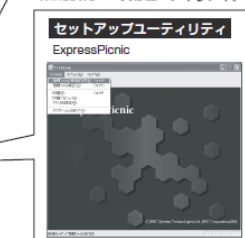
ネットワーク上に分散したサーバを効率よく管理できるGUIインタフェースを提供するユーティリティ。

OS再インストール(シームレスセットアップ)やシステム診断、各種サポートディスクの作成などExpress5800シリーズのシステムを構築するためのセットアップユーティリティ。

装置をリモート管理するためのユーティリティ。



「シームレスセットアップ」で使用する「セットアップパラメータFD」を作成するWindowsベースのユーティリティ。



Windowsベースの各種ユーティリティのインストールからセットアップや保守の際に使用するサポートディスクの作成などをナビゲートする統合支援ツール。ユーザーズマニュアルなどのドキュメントの閲覧もできます。

ソフトウェア-「エクスプレス通報サービス」を参照してください。)

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムをネットワーク上の管理サーバから監視・管理するには、CPUブレードにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。
管理サーバへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。CPU ブレード添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストールガイド」を参照してください。

DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。

DianaScopeの機能やインストール方法についての詳細はオンラインドキュメントを参照してください。



CPU ブレードにおいて DianaScope を使用するためにはサーバライセンスが必要です。
CPU ブレードには以下のサーバライセンスが添付されています。

ー UL1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)

付録 A

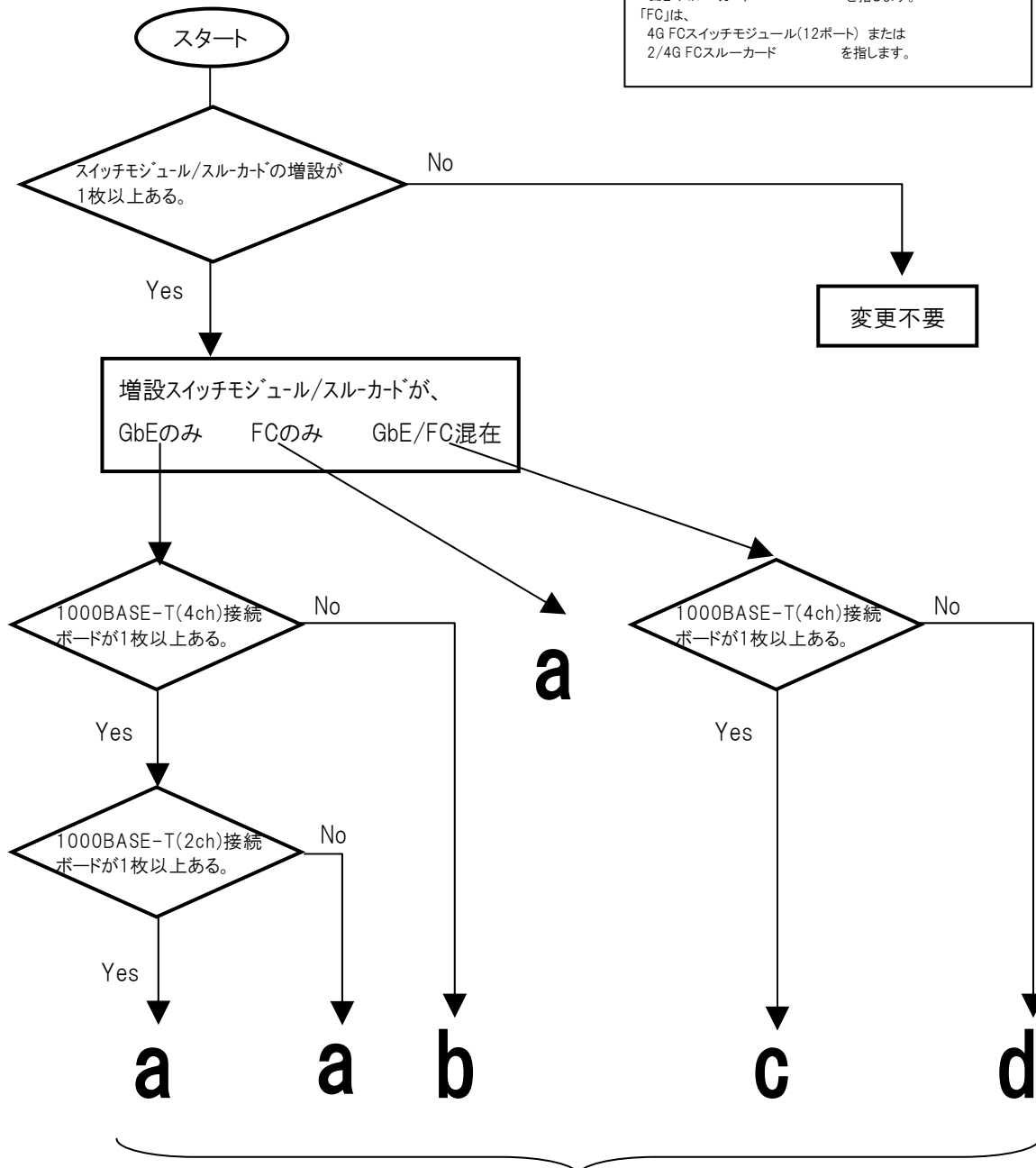
A

B

図 Appendix A-a

本図では、
「1000BASE-T(2ch)接続ボード」と
「1000BASE-T(2ch)接続ボード(iSCSI対応)」をまとめて
「1000BASE-T(2ch)接続ボード」、
「1000BASE-T(4ch)接続ボード」と
「1000BASE-T(4ch)接続ボード(iSCSI対応)」をまとめて
「1000BASE-T(4ch)接続ボード」と呼びます。

「GbE」は、
GbE インテリジェントスイッチ(L2) または
GbE インテリジェントスイッチ(L3) または
GbE スループード を指します。
「FC」は、
4G FCスイッチモジュール(12ポート) または
2/4G FCスループード を指します。



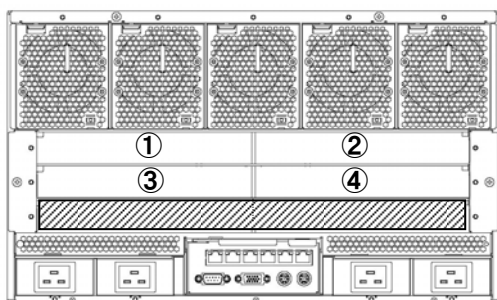
該当する英字を確認して、
次ページに進みます。

前ページのフローチャートの結果に対応するイラストを下図から確認してください。

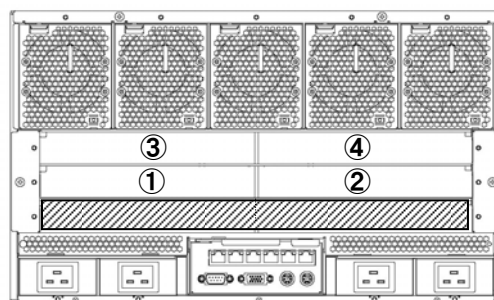
増設スイッチモジュール/スルーカードは、下図の数字の順 (①→②→③→...)にしたがって、増設してください。

Appendix A-b

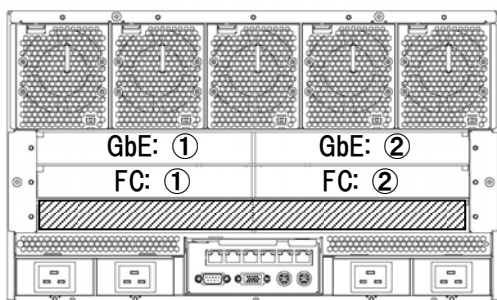
a



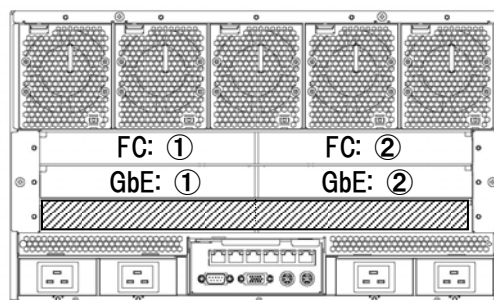
b



c



d



※ (本セットに含まれるものを除き、) 2枚以上のスルーカードまたは3台以上のスイッチモジュールを増設する場合は、2枚以上のブレード用メザニンカードが必要です。

本図では、
「GbE」は、
GbE インテリジェントスイッチ(L2) または
GbE インテリジェントスイッチ(L3) または
GbE スルーカード を指します。
「FC」は、
4G FCスイッチモジュール(12ポート) または
2/4G FCスルーカード を指します。

困ったときは

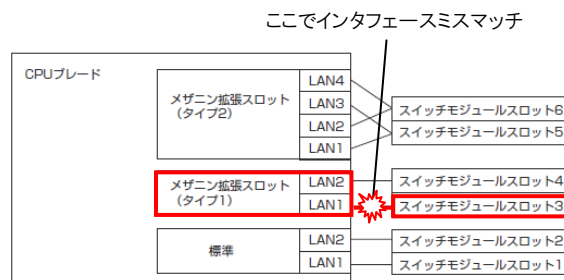
● SIGMABLADE モニターに「SWMn IFmiss Alm」(n=1~6)が表示されている場合

SIGMABLADE モニターに「SWMn IFmiss Alm」(nはアラーム対象のスイッチモジュールスロット番号: n=1~6)が表示されている場合は、ブレード収納ユニットに搭載しているスイッチモジュール/スルーカードとCPUブレードの標準LANまたは増設のブレード用メザニンカードのインタフェース種別がミスマッチ(例えば、一方がGbE: 1Gbit Etherで、他方がFC: Fibre Channelのため通信が行えない状態)です。本書の「Step 5 スwitchモジュールの搭載」を確認して、正しい位置にスイッチモジュール/スルーカードまたはブレード用メザニンカードを載せ代えてください。

Error
SWM3 IFmiss Alm

スロット3のスイッチモジュール/スルーカードがインタフェースミスマッチ状態の例

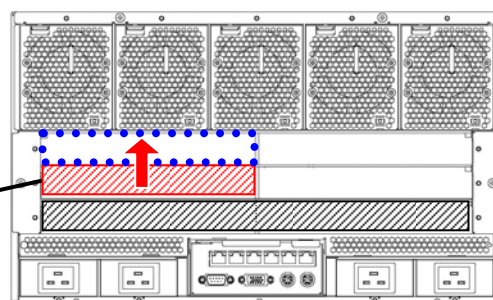
=



Express5800/120Bb-6, 120Bb-d6, B120a, B120a-dまたは増設HDDブレード AD106a 搭載の場合

この場合、スイッチモジュールスロット3のスイッチモジュール/スルーカードの搭載位置を変更するか、これに接続されるブレード用メザニンカードの搭載位置を変更します。

ブレード収納ユニット (背面)

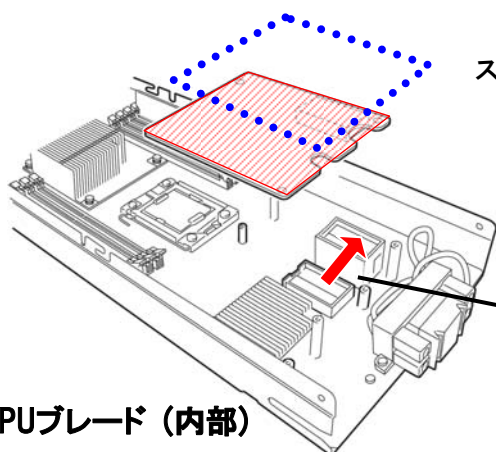


スイッチモジュール
スロット③

or

メザニン拡張スロット①
(スイッチモジュール スロット③に接続されるスロット)
※ Express5800/B120aでの例です。

CPUブレード (内部)



その他の異常と思われる状況が発生した場合は、各装置添付の説明書等の「困ったときは」や「トラブルシューティング」、「故障かな?と思ったときは」等を参照してください。

その他の注意事項

警告ラベルについて

各装置には、装置の設置や取り扱い、デバイスの増設の際に、危険性を秘める部品やその周辺には警告ラベルが貼り付けられています。これは各装置の取り扱いの際、考えられる危険性を常にお客様に意識していただくためのものです。(ラベルをはがしたり、汚したりしないでください)

もしこのラベルがはがれかかっている、汚れているなどして判読できないときは販売店にご連絡ください。

※ ラベルおよびラベルの貼り付け位置については、あらかじめ各装置添付の説明書を参照してください。

取り扱い上のご注意

装置を正しく動作させるために次に示す注意事項をお守りください。これらの注意を無視した取り扱いをすると装置の誤動作や故障の原因となります。

● ブレード収納ユニット

- 本装置を取り付けることができるラックに搭載してください。
- 各デバイスの取り付け/取り外しの際に取り外した部品(ファンなど)を必ず正しく取り付け直してください。
- 定期的に装置の外観、および背面のファンユニットに付着しているほこりを取り除いてください。定期的な清掃はさまざまな故障を未然に防ぐ効果があります。
- 落雷等が原因で瞬間的に電圧が低下することがあります。この対策として無停電電源装置等を使用することをお勧めします。

● オプションの増設電源およびその他電子部品

- これらの製品は大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてから製品を取り扱うか、または静電気除去のためのリストバンドを適切に使用して取り扱ってください。また、製品の端子部分や部品を素手で触ったり、製品を直接机の上に置いたりしないでください。
- オプションは購入したブレードサーバのオプション対象品であることを確認してください。たとえば装置に取り付け/接続できても正常に動作しないばかりか、装置本体が故障することがあります。
- オプションはNECの純正品をお使いになることをお勧めします。他社製のオプションには本装置に対応したものもありますが、これらの製品が原因となって起きた故障や破損については保証期間中でも有償修理となります。

● UPS

- 電源工事を行ってください。
本製品は、AC入力に大電流が流せる「NEMA L5-30P コネクタ」を使用しており通常のACコンセントではご使用になれません。そのためお使いいただく際には、必ず電源コンセントの工事が必要です。最大容量(30A/3000VA)を必要とする場合は、入力プラグを「NEMA L5-30P」から「HARD WIRE」に変更する必要があります。分電盤回路への接続には資格を有した電気技術者が行う必要があります。変更の際は、弊社保守員または販売店にご相談願います。

● EMカード、SNMPカード

— 電池に関する注意事項

本製品にはリチウム電池を使用しています。電池が切れたまま長時間使用した場合、液もれすることがあります。もれた液が皮膚に付着したり、目に入ったりした場合、やけどを起こしたり失明すること考えられます。万一、皮膚に付着したり目に入った場合は、すぐに流水で洗浄して、医師に相談してください。

● コンソールユニット

- 本製品のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。
- 本製品が正常に動作できる環境に設置してください。
- 本製品へのケーブルの接続/取り外しは、サーバ側の電源がOFFになっていることを確認し、サーバ側および本製品の全ての電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
- AC入力電圧が100Vのコンセントに必ず添付の電源コードを使用して接続してください。装置添付以外の電源コードを使用しないでください。またコンセントはプラグの抜き差しがすぐできるように整理しておいてください。
- 本製品を清掃したり移動したりする前には、必ず電源プラグをコンセントから抜き、LCDのPowerランプが消灯していることを確認してください。

- 本製品の電源を一度OFFにした後、再びONにする場合は10秒以上経過してからONしてください。本製品を無停電電源装置(UPS)に接続している場合も10秒以上経過してからONになるようにスケジューリング設定を行ってください。(注意: EMカードのUPS管理機能ではスケジューリング運転できません。)
- 本製品を移動する場合は、本製品に接続している全てのサーバの電源をOFFにしてから本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本製品を運搬する際は、衝撃や振動から本製品を守る為に、購入時の箱を使用してください。購入時の箱が紛失・損傷していた場合はご購入の販売店または保守サービス会社にご相談下さい。
- ケーブルを抜く際は線を持って引き抜かないでください。必ずコネクタ部分を持ってケーブルを抜いてください。
- 定期的な本製品を清掃してください。(クリーニングについてはコンソールユニットのユーザーズガイドの「運用・保守」で説明しています)定期的な清掃はさまざまな故障を未然に防ぐ効果があります。
- 落雷等が原因で瞬間的に電圧が低下することがあります。この対策として無停電電源装置(UPS)等を使用することをお勧めします。
- 本製品のスイッチは同時に2つ以上押さないでください。誤動作する恐れがあります。
- 本製品に添付されている以外の電源コードを使用しないでください。本製品に定格以上の電圧がかかると、故障や火災の原因となるおそれがあります。またこれらの製品が原因となって起きた故障や破損については保証期間中でも有償修理となります。
- オプションのインタフェースケーブルはNECの純正品をお使いください。他社製のインタフェースケーブルを使用し、これらの製品が原因となって起きた故障や破損については保証期間中でも有償修理となります。
- 本製品を保管する場合は、再度運用する際に本製品を正しく動作させるために、室温を保てる場所に保管することをお勧めします。本製品を保管する場合は、保管環境条件(温度:-10℃~55℃、湿度:20%~80%)を守って保管して下さい(ただし結露しない事)。
- 本製品を冷えた環境から暖かい環境に移動した場合には、結露する可能性があります。本製品が設置する場所の環境に十分なじみ、結露がない事を確認してから使用してください。
- 本製品を引き出した状態のまま放置すると、他のサーバや周辺機器を操作する際に本製品の角などにぶつかってけがをする可能性があります。本製品を使用しない場合はラックに収納して下さい。
- 本製品を引き出した状態で、脚立代わりに使用したり、よりかかったりしないでください。
- 体調の悪い状態での使用や長時間の使用は避けてください
- 濡れた手での使用が避けてください。
- 濡れた手でコネクタの抜き差しはしないでください。
- 本製品の上にコップなど不要な物を置かないでください。
- 「モニタの設定」で指定されている解像度およびリフレッシュレートの組み合わせ以外の設定をした場合には正しく表示されません、指定された解像度およびリフレッシュレートでご使用ください。
- Expressサーバ純正のキーボード/マウスを接続してください。純正品以外のキーボード/マウスを接続しても動作保証はできません。
- PS/2ホイール付きマウス等のスクロール機能を持つマウスを本製品にご使用になる場合、サポートされていないスクロール機能は正常に動作しません。また、サポートソフトによってはスクロールが正常に機能しない場合もあります。
- キーボードとマウスは同一形状のPS/2コネクタとなっています、誤接続しないように色を確認して接続してください。
- コンソールのキーボード/マウスと各サーバの設定は正しく設定してください。設定が間違っていると正常に動作しません。
- 各ポートに接続したケーブルのサーバ側コネクタ(VGAとPS/2またはVGAとUSB)は同じサーバに接続してください。VGAとPS/2 またはVGAとUSBのコネクタが別々のサーバに接続していると正常に切り替える事ができません。
- DVI(Digital Video Interface)対応ディスプレイには接続できません。
- 本製品のモニタ以外のモニタを本製品背面のConsole ポートに接続する場合は、マルチスキャン対応のディスプレイをご使用になり、解像度を正しく設定してください。本製品のSSU がサポートする解像度は1600×1200、リフレッシュレート 75Hzまでです。また、ご使用のモニタや解像度の設定によってはSSUのポートを切り替え後に表示がずれる事があります、その場合はモニタかビデオカードで設定してください。
- VGAケーブルはコネクタの向きを確認し、固定ネジを使い確実に接続してください。確実に接続されていないとゴーストやニジミ等の画質劣化の原因となります。
- 本製品にSSU をカスケード接続する場合は、Expressサーバ純正のSSU(N8191-10のみ)を接続してください。他社製のSSUを接続することはできません。
- N8191-10 SSUのカスケード接続は、マスター(本製品)を含めて最大2段までの接続となります。3段以上の接続はできません。

A

B



Express 製品の保守に関して専門的な知識を持つ保守員による定期的な診断・保守サービスを用意しています。
Express 製品をいつまでもよい状態でお使いになるためにも、保守サービス会社と定期保守サービスを契約されることをお勧めします。

以下における本装置とは「N8143-69 17インチLCD コンソールユニット」を指します。

＜本装置の利用目的について＞

本製品は、高性能コンピュータの平和的利用に関する日本政府の指導対象になっております。ご使用に際しましては、下記の点につきご注意ください。けますよう、よろしくお願い致します。

1. 本製品は不法侵入、盗難等の危険がない場所に設置して下さい。
2. 大量破壊兵器およびミサイルの開発、ならびに製造等にかかわる不正なアクセスが行われるおそれがある場合には、事前に当社相談窓口までご連絡ください。
3. 不正使用が発覚した場合には、速やかに当社相談窓口までご連絡ください。

●共通

- 近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない
本装置のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。
- 故障時の処置
故障した場合は、分電盤のブレーカを切断し、または電源プラグをコンセントから抜き、保守員にご連絡ください。

海外でのご使用について

●共通

本セットは、日本国内での使用を前提としているため、一部または全部の装置は、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、本セットを輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に對し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

廃棄

●装置の廃棄／回収リサイクル

本装置の廃棄については、各地方自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

●リチウム電池の取扱い

本セットに含まれるEMカード(およびSNMPカード)には、リチウム電池が使用されています。詳細は、各カードのユーザーズガイド/取扱説明書を参照してください。
(リチウム電池は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」において、「特別管理産業廃棄物」に指定されていますので、むやみにリチウム電池を廃棄することはできません。)

●UPSの電池の取扱い

バッテリーは必ずリサイクルしてください。バッテリーは法律で「特別管理産業廃棄物」に指定されています。むやみに廃棄することは禁止されています。適切なリサイクル施設にて処理するか、弊社保守員または販売店にご相談ください。

第三者への譲渡について

本装置または、本装置に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

●本体について

本装置を第三者へ譲渡(または売却)する場合には、本書と一緒にお渡しください。

●添付のソフトウェアについて

本装置に添付のソフトウェアを第三者に譲渡(売却)する場合には、以下の条件を満たす必要があります。

- 添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡した側は一切の複製物を保持しないこと
- 各ソフトウェアに添付されている『ソフトウェアのご使用条件』の譲渡、移転に関する条件を満たすこと

- 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、インストールした装置から削除した後、譲渡すること

電源の瞬時電圧低下対策について

●共通(ブレード収納ユニット、コンソールユニット)

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置(UPS)等を使用されることをお勧めします。

商用電源の変動対策について

●UPS

この装置は、短時間の商用電源変動に対応する常時商用型の無停電電源装置ですが、商用電源が不安定であったり、サージ・ノイズなどの電源障害対策が必要な場合は、自動電圧調整器(AVR)や常時インバータ型の無停電電源装置などの設置をお勧めします。
常時インバータ型の無停電電源装置を設置した場合、本製品の感度調整が必要になることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策について

●共通(ブレード収納ユニット、コンソールユニット)

本装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、本装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に對し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

電波障害自主規制について

●ブレード収納ユニットおよびオプション装置、UPS

以下における装置とは「N8405-016A ブレード収納ユニット (SIGMABLADE-M)」、「N8405-019A EMカード」、「N8406-011 GbEスルーカード」、「N8406-022A GbEインテリジェントスイッチ(L2)」および「N8142-29 無停電電源装置」を指します。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対応を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

●コンソールユニット

以下における装置とは「N8143-69 17インチLCD コンソールユニット」を指します。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。
VCCI-B

高調波電流規格

●電源ユニット

以下における本装置とは「N8405-039A 電源ユニット」を指します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

その他

本装置およびExpress5800シリーズに関する最新情報は
<http://www.nec.co.jp> をご覧ください。

＜保護用紙＞